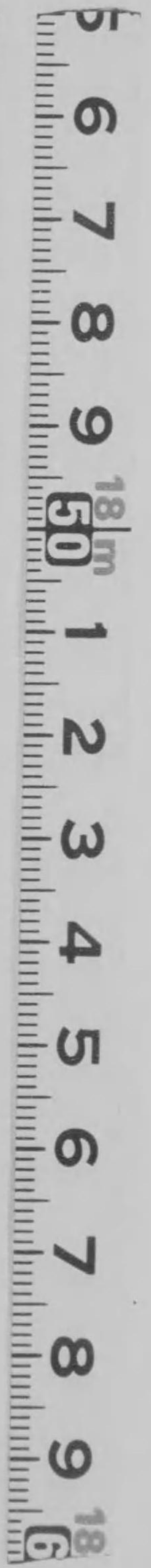


396
286



始



8,9,13

396-286



東洋協會編纂

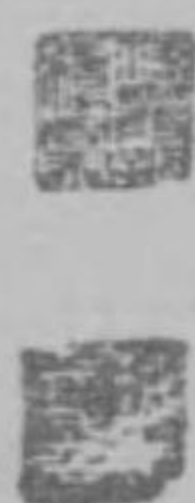
東洋事情の宣傳

大正
11. 3. 10
内交

能之巧札坤
大自自然

大正壬戌春

新平題



序

今や世界は戦争の雲霧を攘ふて一天晴朗、四海波靜かに照々とし、
て平和の春光に浴する事を得るは洵に慶賀すべき事である、博愛と
文化の女神たる天照皇大神を天祖とする我々大和民族は此昌平の天
地に處して、益々光明正大の態度と光風霽月の心事を以て、吾人の
高尚なる天職を完ふする事を期せねばならぬ。

大戦の前後を通じて我日本帝國の地位は益々向上して來た、吾人
の責任は實に重大である、吾人は今や東西の文明を融和溶化して以
て世界人類の進歩に貢献するの使命を荷ふて居る、而して亦人種の
平等待遇と機會均等を高唱すべき正大なる責務を有して居る、吾人

は此高尚なる使命と正大なる責務を完ふするには、從來世界の人心を支配したる軍國主義侵略主義を一掃して、平和主義文化主義の下に確信の第一歩を進めなければならぬ。

惟ふに一國內の擾亂は國民相互の諒解の缺亡より生ずるものである、而して其平和は實に相互の諒解に依つて維持せらるゝものである、國際間に於ける關係も亦之と異なる事は無い、故に吾人日本國民は其地位の向上に鑒み益々恭謙に愈々努力して吾人の正當なる主張の宣明に力を竭し以て彼我の諒解を圖らねばならぬ、而して吾人が列強間に處して常に苦心する所は人種風俗習慣好尚の相違により相互の諒解洵に容易ならざる點である、吾人は此特殊に加重されたる負擔に對して堅忍と奮勵とを以て事に當らねばならぬ。

吾人と歐米人間の諒解に困難なる事情は免るべからずとするも、吾人と東亞各民族間の諒解が果して圓滿に行はれ居るやと云ふに是亦決して容易の事では無い、否時としては却つて互に相輕侮して寧ろ歐米人よりも其諒解の困難なるを思はしむる場合さへある、此の如きは吾人が高尚にして正大なる使命と責務を完ふする上に於て實に遺憾に堪えざる所である。

蓋し吾人日本國民の或者は今尙昔時の島國的偏見を抱き時として新附の同胞を侮蔑し、時として親愛なる隣友を輕視し、徒らに自ら尊大にして毫も東亞の先覺者たる大使命に醒むる事能はざる者がある、而して亦東亞の事情に對しては歐米の事情に暗きよりも、より以上に暗き者が尠くない、且又縱令其事情に迂なる事を知りつゝも

尙之を知らむとするに努むるの念慮をも起さざる者がある、我國民が若しも此偏見と此淺慮を改むる事が無かつたならば、決して偉大なる國民として將來の發展を庶幾する事が出來ないのである。

我東洋協會は實に此必要の爲に生れたるものであつて、常に東亞民族の融合を圖り、東洋事情の宣傳に努むる事茲に二十五年の久しきに及んで居る、本書の發刊も亦此趣旨の遂行に外ならぬのである。本書が若し些少なりとも世人を警醒する事を得ば實に本會の幸福たるのみでは無いのである。

—(4)—

大正十一年二月 東洋協會専務理事

貴族院議員 永田 秀次郎 識

凡 例

一、本書は最近の朝鮮、臺灣、樺太、滿蒙其他東洋事情並に南米等同胞發展地の海外事情を通俗的に紹介するを目的として編纂したるものであります。

一、本書は東亞民族の融合、共同福利の増進を主眼とし文化的、經濟的發展の宣傳であります、と同時に同胞の海外發展の礎であります。

—(1)—

一、本書は平和記念東京博覽會記念刊行物として編算を急ぎましたから不備の點は後日増補修正致します。

大正十一年二月

東洋協會宣傳部

帝國版圖內人口及密度 (大正九年十月一日) 國勢調査

	人口	面積	一方里人口
全版圖	七六、九八五、四二二	四三、七七七	一、七五九
内地	五五、九六一、一四〇	二四、七九四	二、二五七
朝鮮	一七、二六四、一一九	一四、三一二	一、二〇六
臺灣	三、六五四、三九八	二、三三二	一、五六七
樺太	一〇五、七六五	二、三三九	四五

東洋事情の宣傳目次

第一 大なる日本としての使命

- 一 平和と文化戦争……………(一)
- 二 世界に於ける日本の地位……………(三)
- 三 東亞民族融合の第一義……………(四)
- 四 第一に改善すべき點……………(五)
- 五 東洋協會の任務……………(八)

第二 海外發展の急務

- 一 國民の膨脹力……………(一一)
- 二 人口の増加と食料關係……………(一二)
- 三 海外發展の現状……………(一五)
- 四 海外在留地別本邦内地人……………(一六)

第三 朝鮮事情の宣傳

五 文化的發展の要……………(一七)

一 現在の朝鮮……………(二一)

 (イ)内鮮の連絡設備……………(二一)

 (ロ)朝鮮は日本文化宣傳の樞軸……………(二三)

 (ハ)現在人口と内地人……………(二四)

 (ニ)朝鮮の文化的發達……………(二五)

二 民衆福利の増進……………(二六)

 (イ)交通機關の發達……………(二八)

 (ロ)産業の發達……………(二九)

 (ハ)衛生の施設……………(三三)

 (ニ)教育の發達……………(三四)

 (ホ)地方制度の改善……………(三六)

 (ヘ)社會救濟……………(三九)

 (ト)朝鮮開發の補助機關……………(四一)

第四 臺灣事情の宣傳

三 朝鮮事情宣傳の歌……………(四三)

一 現在の臺灣……………(四八)

 (イ)今日の臺灣は南方の樂土……………(四八)

 (ロ)内地と臺灣の連絡設備……………(五三)

 (ハ)臺灣は南洋發展の根源地……………(五五)

 (ニ)臺灣の文化的發達……………(五九)

二 民衆福利の増進……………(六〇)

 (イ)交通機關の發達……………(六一)

 (ロ)産業の發達……………(六四)

 (ハ)衛生の施設……………(六八)

 (ニ)教育の發達……………(七〇)

 (ホ)地方制度の改善……………(七三)

 (ヘ)社會救濟……………(七七)

第五 樺太事情の宣傳

- 一 現在の樺太……………(八三)
- (イ)内地と樺太の連絡設備……………(八三)
- (ロ)樺太は帝國發展の北門……………(八三)
- (ハ)内地人發展の現状……………(八四)
- 二 共同福利の増進……………(八六)
- (イ)交通機關の發達……………(八六)
- (ロ)市街及部落の發達……………(八七)
- (ハ)産業の發達……………(八九)
- (ニ)教育及衛生の施設……………(九三)
- 三 樺太移住の奨励保護……………(九四)
- (イ)移住民に對する施設……………(九四)
- (ロ)土地の處分……………(九六)
- (ハ)移住者の心得……………(九八)

第六 滿蒙事情の宣傳

- 一 現在の滿洲……………(九九)
- (イ)内地と滿洲の連絡設備……………(101)
- (ロ)滿蒙は日本文化宣傳の舞臺……………(101)
- (ハ)内地人發展の現状……………(104)
- (ニ)滿洲の文化的發達……………(105)
- 二 共同福利の増進……………(108)
- (イ)交通機關の發達……………(108)
- (ロ)市街の建設……………(111)
- (ハ)衛生の施設……………(113)
- (ニ)教育の施設……………(114)
- (ホ)地方行政に關する施設……………(117)
- (ヘ)産業の發達……………(119)
- (ト)北滿及內蒙古の開發……………(127)
- 三 蒙古事情……………(128)

四 滿蒙文化の紹介と鮮滿及支那案内……………(一三)

五 滿洲事情宣傳の歌……………(一四)

第七 南米事情の宣傳

一 邦人發展の新天地……………(一五)

 (イ)南米はどんな所か……………(一五)

 (ロ)邦人發展の現状……………(一六)

二 南米の樂土ブラジル……………(一七)

 (イ)最も有望なる移住適地……………(一七)

 (ロ)氣候風土と産物……………(一七)

 (ハ)邦人を最も歓迎する國……………(一八)

 (ニ)邦人の企業に便利なる地……………(一九)

三 南米渡航の榮……………(二〇)

附 錄

支那に於ける列國の經濟的發展

 (イ)支那對日英米貿易額……………(二一)

 (ロ)在支日英米商館及人口……………(二二)

東洋事情の宣傳

東洋協會宣傳部編

第一 大なる日本としての使命

一、平和と文化戰爭

今次の世界的大戰亂歐洲戰爭を一轉機として、世界の趨勢は頓に一變しました、經濟上殊に思想上に一大革新を促し、世界的思潮は時代の趨向に一新紀元を劃しました、過去の所謂軍國主義、侵略主義は經濟的文化的發展と代つて人類の福祉、共同福利の増進を標榜

するに至りました、蓋し世界平和の曙光を認めらるゝに至つたのは喜ぶべきことでありますが、是やがて干戈の戦争が終つて文化の戦争が始まる烽火であります、戦略や武器の競争が止んで商略と商品の競争が始まる時であります、科学文化の熾烈なる競争の始まる時であります、即ち國際的、人種的實力の經濟戦争となるのであります、吾々は正義と理想の下に眞の恒久平和と平等自由とを建設する覺悟を要します、併も吾等の理想たる人種平等差別待遇撤廢は未だ實現するに至らず、東亞民族發展の國際的障壁は依然として撤去されない、これには種々複雑な關係事情が伏在して邪魔をして居るのであります、吾々は堅忍自重不撓の精神を以て東洋民族の共榮、福利の増進、文化の進歩發達に努力せねばならぬ高尚正大なる使命

を有して居ります。

二、世界に於ける日本の地位

十九世紀以降白人の殆ど獨り舞臺であつた地球上に東洋の一角から、我日本は旭日冲天の勢を以て擡頭躍進し、僅か五十餘年間にして世界の先進文明國と相伍し、更に歐洲戦争後の二大會議に於ける我國の地位は巴里會議に於て五大強國の一に數へられ、又最近華盛頓會議に於ては一躍三大強國の一たる資格を有するに至りました、是獨り我日本の名譽ばかりでなく、東洋民族、黄色人種のために名譽であり、誇りであらねばならぬのであります、それ丈け他の嫉視や、反感やら、猜疑、誤解なども受け易く、やれ軍國主義の侵略主義のと難癖をつけたり、非難するものが多くなつて來た様であり

ます、明治の過去の日本と大正の現在の日本とは、對内的にも對外的にも餘程異つて居りますが、世界思潮の大勢、時代の趨向は吾々の大に注意せねばならぬことであると思ひます、殊に東洋に於ては平和確保の上から云ふも文化促進の點から見ても、我國の地位は極めて重大であつて、東洋に於ける其使命は益々重きを加へた次第でありますから、我日本民族は奮然自覺する所あつて大に自ら任じ、大に自ら重んぜなければならぬと云ふことを痛切に感ずるのであります。

三、東亞民族融合の第一義

日本は東洋の先進國として東西兩洋の文明を融合攝取し、他の黄色人種を指導誘掖して文化の進歩、幸福の増進を圖らねばならぬ、

吾々日本人は自己の進歩啓發を計ると同時に、東亞各民族とよく融合提携して産業の發達、文化の向上、共同福利の増殖の實を擧げ、同昌共樂して太平を謳歌する事の出来るやうにしたいと思ひます、東西の文明を融合するの前提は、實に東洋各國の精神的結合が根本とならねばならぬ、夫には戰勝者的、征服者的の舊い思想を改善して、東亞各民族が相互に理解し合ひ、心と心との上に相許し合ひ、美の王國を建設して世果の平和に資するといふ堅い約束の下に相互に努めねばだめでありませう。

四、第一に改善すべき點

我同胞は動もすれば昔時の『小なる日本』としての島國根性に捉はれて未だ現在の『大なる日本』としての高尚にして正大なる使命を自

覺しない人が澤山あります、それ故往々隣邦の中華民國人を始め新附の同胞たる臺灣、朝鮮の人達迄も輕蔑する傾向があります、例へば中華民國人を『チャンコロ』と呼び、又臺灣の同胞を指して『臺灣の土人』朝鮮の同胞を呼ぶに『ヨボ』と云ふ如き、内地の人は往々斯かる言葉を無意識に用ふる人があるやうですが、是れは實に以ての外の心得違であります、土人と云ふ言葉は如何にも文化の低い野蠻人の如くに思はれます、然るに臺灣は我版圖に歸して以來既に二十有六年の星霜を経て、臺灣同胞の文化の程度は著しく向上して居ります、殊に最近は教育の普及により普通教育を始め、専門教育に至る迄長足の進歩を致して居ります、又臺灣の人口は三百六十萬人で、其の内所謂生蕃人は總數で僅かに八萬人内外に過ぎないので、夫

れも遠く山の中に住んで居りますから、十數年臺灣に居る内地人でも蕃人を知らぬ人が多い位で、多數の住民は皆昔支那から渡つて來た漢民族であります、故に土人と云へば臺灣の漢民族を總て生蕃人と同じ様に思つて居る様に見えて、之れは臺灣の同胞が常に憤慨する所であります。又日韓兩國相互諒解の下に合邦した朝鮮人に對し『ヨボ』と輕蔑することは徒らに鮮人に不滿不快の念を與へるのみで損失こそあれ毫も得る所はありません、何となれば今日に於ては等しく是れ、我日本國民の一人であつて同じく我陛下の赤子であります。要するに内地の人が臺灣や朝鮮の人に對する場合の言葉使や態度は常に地を替へて考へて見る必要があります、是位の同情と是位の理解が無くては決して偉大なる國民となる事が出來ないと思ひま

す。又五千年の歴史を有し四億の民を擁する支那、現在の中華民國人に對し『チャンコロ』と輕侮するのは、大なる意味に於て悲しむべき事で民族相互の融和、意思の疏通に障害を及ぼすことになるから大に注意しなければならぬ、吾々は此恥づべき賤しむべき根性を先づ第一に矯め直さなくては我日本は眞に世界に於て孤立の地位に立たねばならぬと思ひます。

五、東洋協會の任務

東洋各地の事情は時節柄益複雑を加へ來たつて居るが、我國民の多數は今猶甚だ無頓着で、支那、滿鮮、蒙古、亞伯利、樺太、臺灣南洋等の最近の事情に就いて疎いのは遺憾であります、又南米ブラジル、アルゼンチン等の如き新天地に於て吾人を歡迎しつつあるも

其の土地に就いて無智識無了解である爲め兎角同胞の發展が思はしくない。我東洋協會並に其の機關學校たる拓殖大學は、故桂公爵の創立に係り、今日後藤男爵を戴き盛んに東洋の文化を宣傳し、海外思想を鼓吹し、學術講演や殖民講演に、又機關雜誌『東洋』や『東洋學報』に、その他調査出版やら、或は活動寫真等に依つて亞細亞民族の文化的發展、共同福利の増進に資すべく努力して居ります。尙ほ殖民教育施設としては東京の拓殖大學の外、朝鮮に京城高等商業學校、滿洲に大連商業學校、旅順語學校、臺灣臺北に臺灣商工學校の五校を經營し、公私の業務に従事すべき須要の人材を養成して文化的事業の進展に裨補して居ります、又臺灣及朝鮮の内地留學生監督事務所を東京に設け、寄宿舎に留學生を收容して萬端の世話をし

て居ります、東洋協會の本部は東京に在りますが、臺北、京城、旅順には各支部を設置し、其の他樞要の地に委員部を設けて事業遂行の便を圖つて居ります、そして東洋協會は社團法人組織で、會員五千名を算し創立二十五年に達する古い歴史を有して東洋に於ける平和文明の事業を裨補し、各般の事項を調査講究し、其の真相を闡明して、民族の融合共同の福利を増進するを以て主なる目的としてゐる次第であります。

第二 海外發展の急務

一、國民の膨張力

『萬里の波濤を開拓すべし』是れ、畏くも明治先帝陛下の夙に億兆に宣し給へる千載不滅の經典であります、我國の現状は内に殖産工業を發達せしむると同時に民勢を外に利導して、大和民族を汎く海外に移殖發展せしめなければならぬ、歐洲諸國は今次の戦争で七百七十八萬人の壯丁を失ひ、此外一千八百六十萬人の不具者を生じ、今日は如何にして人口を増加すべきかと苦心して居りますが、本邦の人口は一方里二千二百五十七人といふ密度で、世界で有名な人口稠密の國柄であります、そして生産率も偉大で一年間に千人に付三

十四人強と云ふ數字を示して居ります、日本も此數年間出生率の減少を來たし、死亡率も亦著しく千人に付二十二人弱に當る死亡を算して居りますが、毎年平均増加歩合は人口千に付十二人強で、五十年前三千三百萬人であつた本邦内地の人口は、今や五千五百九十六萬人に上りました、その増加數は三十萬、四十萬、五十萬、六十萬と逐次殖える一方であります、勿論人口は減少するよりも増加する方が夫れ丈け國力を強めることに爲るから結構であるが、人口の増殖は動もすれば生活の困難、貧富の懸隔、國民性の墮落等諸種の社會問題を誘起する虞れがありますから、大に考慮を要すべき國家社會問題であります。

二、人口の増加と食料關係

第一此の急激なる人口の増加率は吾々日本人の常食とする米産額の増加率に伴はない、農商務省の最近發表したものに依れば日本内地米の産額は大正四年から大正八年までの五ヶ年間の平均が五千六百十萬石で、之れに對する内地の需要消費額は五ヶ年平均約六千九百十萬石になり、約四百八十萬石の生産不足となつてゐる、其處で朝鮮及臺灣から年平均二百七十萬石の移入を爲して居るが、尙ほ二百十萬石からの不足であります。之を補ふべく外國米の輸入を仰ぎ、現に大正七年の内地米生産額五千四百七十六萬石あつて、平年作より稍良好であるにも均らず、尙ほ三百七十萬石の外米を輸入して漸く需要を満たし、大正八年の如きは五百四十萬石の輸入をなし其の價額一億七千萬圓に達して居る、併も同年は豊作で六千百萬石の生

産にして、輸入外米の残存は僅かに五十七萬石に過ぎないと云ふこととであります、斯くの如く内地に於ける米の需給關係は普通の状態に在つて、朝鮮及臺灣から移入するものを加へても、其の供給額は消費額に對し年々三百萬石からの不足を告げる状態であります。

此の現状から土地の利用即ち耕地の整理や耕作法の改良及開墾の増加に依る米の生産増加を計るも、内地の農業は今日既に集約の極に達し自から生産に限りがある、然るに人口は年々増殖するばかりであるから、恐らく十年後には一千萬石以上、二十年後には二千萬石以上、三十年後には三千二百萬石からの不足を來たすことになるであらう、此の趨勢を以て今後を推し測る時は洵に寒心すべき、國民安危國家興廢の岐るる喫緊問題であります。

三、海外發展の現状

此の解決方法としては國內殖産工業の發達を圖ると共に、他方國勢民力を成るべく海外に發展せしむるより外に致方がないのであります、須らく海外に移殖發展すべきであります、是れ軍國主義の爲めにあらず、領土侵略の野心あるが爲めにもあらず、實に人口問題を核心としての己み難き必然の勢であります。然らば日本人の海外發展の現状はどうであるかと云へば、外務省調査の大正九年六月末現在海外在留内地人は總數六十萬三千八百十三人で、是が我國の明治十八年始めて布哇へ九百の移民を送つてより今日に至るまでの海外居住者の總數であります、日本内地一年間に増加する人口數を三十六年間かかつて漸く海外へ送つた勘定であります、年々約六十萬

を増加する國民の膨脹力に比すれば實に微々たる、心細い次第であります。

尙ほ朝鮮、臺灣、樺太の我新版圖内に於ける内地人居住者の總數は五十八萬二千五百九十人で、つまり日本本土外の在住内地人は前記外國在留者と朝鮮、臺灣及樺太の居住者を合算したる百十八萬六千四百三人と云ふことになりませんが、内地の人口増加數の漸く二ヶ年の數位でありまして、日本の人口問題から見る時は寔に微々たるもので、同胞の海外發展の急務を絶叫せざるを得ない次第であります。

四、海外在留地別本邦内地人

滿洲 二二二、四九四人 北米合衆國 一二五、四七六六人

布哇	一〇八、一〇九人	支那	五四、五四四人
南米	四二、八五九人	南洋	二三、三八六人
加奈太	一七、六八八人	比律賓	九、三三七人
西伯利	六、二三八人	墨哥西	二、二八四人
其他	一、三九八人	計	六〇三、八一三人

附、新版圖内在住内地人

朝鮮	三四六、四九六人	臺灣	一五三、三三〇人
樺太	八二、七六四人	計	五八二、五九〇人

五、文化的發展の要

我國は益海外に向つて發展しなければならぬ、と同時に東西兩洋より攝取融合したる日本の文化を他民族に宣傳し、東洋平和の確保

共同福利の増進を圖らねばならぬ重大の使命を有つてゐる。然るに近來此の日本の海外發展に對して諸種の難題が多く、東洋各地の事情は時節柄益複雑を加へて參りました、吾々は最近の東洋並に海外の事情をよく知らねばならぬ、曾て日本移民の渡來を歓迎した北米加州の排日は言ふ迄もなく、又吾々日本人の移住に好適した英領加奈陀に於ても、濠洲に於ても其の門戸を閉鎖し或は閉鎖せんとしてのあります、今日吾人を歓迎してゐる國は移住適地として先づ南米ブラジル、アルゼンチン等の遠隔の地であります、斯様に我海外移民は近來尠からず支障を蒙つてゐるが、猶ほその上に支那及西伯利方面への發展に向つても、動もすれば横槍が入るといふ有様で、東洋方面にも排日氣分が生ずると云ふ事は甚だ遺憾の事であります、

今日は東亞各民族、黄人種が相提携し一致團結して東洋の文化を進步發達せしむべき秋であるのに、東洋の先進國たる日本と親善しいといふ事柄は最も歎すべき次第であると思ひます。

過去に於ける日本の對外策にも不充分の點があつたでせう、又海外に於ける同胞の中に間違つた心得違の言行を爲す者もあつたでせう、其の結果反感や誤解を招き、軍國主義とか、侵略主義とかの謗を蒙るに至つたのは如何にも残念の事ではありますが、此點は自ら省みて改めなければ『大なる日本』としての使命を全ふることが出来ぬと思ひます。又一面他の民族に於ても日本の海外發展は日本自身の爲めばかりでなく、黄人種乃至黄人國の向上進歩の核心となり、自他一般の利益幸福を増進する所以であるから、目前の利害や區々

の感情に囚はれないで、相提携し相互に理解し合つて、互助互惠、同昌共樂の實を擧げたいものである、それには我國人は今少しく世界の大勢と東亞の事情を眞面目に研究し、其の眞相の闡明に努め、以て東亞永遠の平和確保の爲め、文化の向上發展の爲め勇進活動せられむことを期待する次第であります。我東洋協會は此目的の下に是等東洋各地の事情を闡明し、殊に東洋に於ける各民族相互の諒解を全うして、東亞文化の進歩、共同福利の増進に貢献せむ事を期待して居るのであります、今後は益其の目的の遂行と宣傳とに努力する考であります。

第三 朝鮮事情の宣傳

一、現在の朝鮮

朝鮮はどんな所であるか。日韓兩國併合以來既に十二年目の星霜を閲して居るが、内地の官民で朝鮮の事情に精通して居る人々は、朝鮮に直接關係を有して居つた者で、是は内地人の内の一小部分に過ぎない有様で朝鮮の眞相を理解して居る方々の尠ないのは甚だ遺憾の次第であります、随つて朝鮮の事には甚だ無頓着で理解に乏しく、之が爲め動もすれば新附の同胞に對し意思の疏通を缺き誤解を生ずなど、種々なる不利益を來すことを免れないのであります。

(イ) 内鮮の連絡設備

内地の人は朝鮮と云へば餘程遠い處の様にして居る人もありますが、下關又は門司と朝鮮の東南なる釜山港との距離は僅かに百二十里で、連絡船は二、三千噸級の巨船五隻を備へ孰れも新式の建造にして、設備頗る結構で無線電信の設置もあれば又寢臺、浴室、食堂等總て完備して居りますから、心地よく安々と航海することが出来ます、そして連絡船は下關及釜山双方から毎日午前、午後の二回定時に出帆して釜山發京城經由の北行急行列車と、下關（又は門司）發の東京、長崎、鹿兒島各方面行の列車に聯絡します、連絡船の航海時間は乗船から上陸まで十一時間半即ち半日の時間で渡航出来る、此の間に壹岐、對島の二島も見えれば又日露海戦に名高い沖之島も展望出来る、朝鮮の鐵道は凡て廣軌式で、本線は釜山を基點

とし國境鴨綠江の大鐵橋を渡つて滿洲安東縣に到り南滿洲鐵道東清鐵道に連絡し、更に西伯利線を経て歐洲大陸に通ずるものであります、初めて渡鮮する人は先づ第一に釜山の棧橋の規模の宏大なるに驚き、次に船車の連絡設備と鐵道が廣軌式の立派なのに一驚するのであります。

(口)朝鮮は日本文化宣傳の樞軸

朝鮮は亞細亞大陸の東南に突出した一大半島で、面積は一萬四千三百餘方里、内地の本州の面積と略相等しく。臺灣の約六倍に相當して居ります、形を云へば扁長で、南北の最も長い處は二百十里、東西最廣の處九十里で、東は日本海に面し、西は黃海に臨んで遼東半島及山東省に對し、南は朝鮮海に瀕して九州の西北部と相對し其

の間に壹岐、對島の二島が横つて居ります、又北は長白山脈を分水嶺として西黃海に注ぐ鴨綠江と東日本海に注ぐ豆滿江を國境として滿洲及露領沿海州に連つて亞細亞大陸に接壤して居ります。随つて朝鮮は内地と一帯帶水で日本帝國の文明を亞細亞大陸に宣傳する樞要の地位に當つて居るのです、即ち日本の文化宣傳の樞軸を爲す要地であります。

(八) 現在人口と内地人

朝鮮の人口は大正九年十月一日現在總數一千七百二十六萬人ありまして、近年内地人の増殖著しく三十四萬六千人に上りました、又朝鮮人は一千六百八十九萬人で、此外に外國人が二萬六千人居住して居ります。そして現住内地人の大多數は中國、九州、四國方面の

人々で最も多いのは山口縣人の三萬四千人、次で福岡縣人の二萬六千人、長崎縣人の二萬二千人、廣島縣人の二萬一千人でありまして、職業別に見ますと商工業者が十七萬人、農業者が約五萬人に達しました。尙ほ外國人としては支那人が一番多數を占めて居ります。

(二) 朝鮮の文化的發達

併合後既に一昔を経過した今日の朝鮮は併合前に比し、福利の増進民度の向上したことは著しいもので、民衆は其の幸福増進し産業及貿易は顯著なる發達を見るに至りました、十年前僅か三億萬圓であつた生産額は今日十七億萬圓に上つて約六倍の發達を爲し民衆福利の増進は格段の相違であります、殊に一視同仁の大義に基いて内鮮人間融和の障礙たりし内鮮人官吏の差別待遇も撤廢され、四民平

等日本國民として文化の進歩、民意の暢達を圖りつつある現状であります。それで朝鮮新附同胞の文化の程度は最近教育の普及より著しく向上し、普通教育を始め専門教育に至る迄長足の進歩を見るに至りました、教育の方針も内地同様の教育を爲す事となりまして、近年向學心の蒿まつて來た事は非常なものであります。現に内地に遊學して大學其他各種學校に在學して居る朝鮮人學生は其數二千名の多きに達しました、是等の内地留學生は東洋協會で東京に朝鮮學生督學部を設けて萬端の世話をしてゐます。

二、民衆福利の増進

更に民衆の福利が如何に増進されたか。併合以來過去十一個年間に於て朝鮮開發の爲めに、政府が投じた經費は約十億になつてゐる

此の外直接朝鮮の産業開發を圖る爲めに民間に於て任意に投資した額はまた頗る多額で、大正九年末までに内地から朝鮮に這入つた資金が、有力なる會社の出資又は投資を合して約二億六千萬圓に上つて居る、其の他内地の小會社及個人關係の流入資金を合算すれば、尠くとも三億萬圓以上の金が這入つてゐる、即ち併合後朝鮮開發の爲めに官民の投じた費用は、約十三億と云ふ多額のものである、斯ういふ多大の經費を投じて日本が統治を行つた結果、朝鮮の治安が維持せられ、行政が改善せられ、そうして民衆の福利が日に月に増進したのであります、此の點は單に内地人がそう認むるばかりで無く、朝鮮の人々も又外國人も均しく認むる所であります、以下少しく具體的に之を述べれば。

(イ) 交通機關の發達

交通方面を云ふと、鐵道にしても道路にしても非常の進歩であります、明治四十三年には鐵道の延長數は僅か六百四十哩、釜山新義州間の京釜、京義の兩本線が建設されたのみであつた、然るに其の後一億餘萬圓の經費を投じて益鐵道の延長に力を致した結果、今日官設の鐵道延長哩數一千六百哩に達して居る、此の外私設の鐵道軌道が二百二十三哩になつて居ります。道路の方はどうかと云ふと一
 二等道路の路線延長が三千八百八十三里、其の内既に改修を終つたものが千七百里、三等道路の路線延長が二千八百四十里、改修を終つたものが千百三十一里で、まだまだ改修を終らぬ部分があるけれども兎に角重要な箇所には自動車運轉を爲し得る状況になつて來

まして併合前の道路と云へば殆ど小徑に過ぎない貧弱のもので、輿、馱馬、舟筏によつて僅かに運輸を爲して居つた過去に顧みると隔世の感があります。又港灣の修築にしても併合以來約二千三百萬圓の經費を投じて、釜山、仁川、元山、鎮南浦の修築に力を致し、或は防波堤を築き、以て海陸の聯絡設備を爲し、又近く清津、城津二港灣の改築にも着手を見る筈で、沿岸航路の如きも今日相當に發達して參りました。

(ロ) 産業の發達

産業方面を云ふと、是は非常なる發達であります、明治四十四年の朝鮮の生産額は僅かに三億萬圓でありましたが、大正八年には十七億萬圓を算するに至りました。又貿易の方面を見るに明治四十三

年には六千萬圓であつたものが、大正八年には五億萬圓の貿易額であります。農業の方面はまた格段の進歩をなして、明治四十三年には農産額が僅か二億四千萬圓であつたのが、大正八年には十三萬八千萬圓に上りました。その他水産、鑛産、林業等の如きも非常なる進歩でありまして、價額に於て大なるものは八倍、尠くとも約二倍の増加であります。工業の生産額は明治四十三年には三千餘萬圓であつたが、大正八年には二萬六千萬圓に達した。尙ほ産米増殖、造林の計劃と云ふやうなものも漸次確立されて來て、現在百五十五萬町歩の水田を有し、米の生産高年額一千四百萬石内外、其の内の百五十萬石乃至二百五十萬石位は内地に移出して、内地の生産米不足を補つて居る、林野は總面積千五百八十八萬町歩の内、既に造林の

完成したものが二百四十八萬町歩になつて居る、元は到る處山骨を暴露する秃山であつたのが、近來は漸次青緑を添へて内地の山と餘り變らない様になりつつあります、尤も朝鮮の北境鴨綠江、豆滿江兩流域に在る林野は東洋有數の大森林で、平安北道及咸鏡南北道の三道に跨つて、其の區域面積は約二百二十萬町歩に達し、恰も内地國有林野全面積の半に相當してゐます、九割三分即ち二百四萬町歩は成林地でありまして、主として寒帶樹種の紅松、杉松、落葉松の類で蔽はれて居ります、朝鮮總督府は官營で之を伐木製材して居ります、有名は鴨綠江節と云ふのは此の伐木運搬の筏流しの謠ふものに起つて今日各地で流行して居るのであります。尙ほ朝鮮の特産物として紡績用の米國種陸地棉の産出は漸次増加し、又藥用人蔘及畜

牛も年々改良増殖しつつある状況であります、其の他農家の副業として近年養蠶業の發達著しく産繭額は逐年増加して居ります。

重要物産生産額

米	五億一千六百三十萬圓
麥	一億二千九百六十萬圓
豆	七千二百十二萬圓
魚類	四千四百三十萬圓
酒類	四千三百七十萬圓
棉花	三千二十七萬圓
藥製品	二千八百四十萬圓
鐵	一千三百二十萬圓

(ハ)衛生の施設

衛生方面に就て云へば、併合前は天然痘の撲滅に關する方法も確立せず、毎年天然痘が流行し到る處にあばた面があると云ふ風である、又チブス、赤痢、マラリヤ等の流行病が殆ど地方病の如く流行した、之が爲めに幾多の貴重なる生命が失はるる情況でありました加ふるに衛生思想が開發されない爲め、一度コレラ、ペスト等の流行に會すれば、忽ちにして幾萬の人が倒るといふ如き非慘事を見たのである、然るに日韓併合後文化の惠澤に浴し各地に衛生施設が行れて、疾病の豫防治療等漸次改善さるるに至りました、就中在京城の總督府醫院は規模宏大で醫師の定員三十五名、一ヶ月の平均治療患者三萬三千人の多數に上つてゐます、慈惠病院の如きは

年迄に二十個所建設せられ、公醫が百八十六人各道に配置せられ、夫々衛生並治療の方面に努力して居りますが、更に齊藤男爵が新總督になつてから大正十四年迄の繼續事業として新に慈惠病院を十三増設することになり、尙ほ大正九年度に於て公醫が三十人増置せられ且各道に衛生技師や技手を配置することになりました、勿論まだまだ十分とは云へないが、併合前醫者としては僅かに幼稚の漢法醫たる醫生しか存在しなかつた舊韓國時代に比して見れば、民衆の生命の保護、疾患の治療の點に就て非常なる進歩であると云つて差支無いと思ふのであります。

(二) 教育の發達

教育方面を云へば、併合前は唯僅かに初等の漢文、習字を教授す

る丈けの書堂と稱する不完全なる機關で、新式の教育は殆ど顧みられず非常に遅れて居つたのであります、併合後に到り始めて新式教育の興を見るに至りました、併合當時には普通學校(小學校程度)は公私立を合して三百六校で、就學兒童數は三萬二千人でありましたが、大正九年になると普通學校の數が一千百九十六校(内公立六百一校)となり、就學兒童數は公立普通學校兒童十一萬人に達しました、教育費は併合當時の五十萬圓が今は十二倍の六百萬圓となり、鮮人の教育費負擔も増加致しましたが、鮮人は寧ろ之を歓迎して居ります、以て近來如何に朝鮮人の向學心が蒿まりつつあるかを窺知し得るのであります。中等程度的高等普通學校は明治四十三年には僅か三校で、生徒數が四百四十六人であつたが、大正九年度

に於ては十二校に増加し、生徒數三千五百二十二名、女子高等普通學校は同年度に於て三校で百六十九名であつたものが、大正九年には公私立を合して七校、生徒數が七百七十一名になつて居る。實業學校の方は併合前にも割合に進んで居つて、公私立を合して十七校生徒數が千九十四名、それが大正九年には二十六校、生徒數二千二百八十七名に増加してゐる、尙ほ簡易實業補習學校は十七校で四百七十九名でありましたが、現在は五十五校、千八十二名といふ様になつて居ります。又専門學校の如きは現在官私立六校で、在籍學生六百五十名に達し、其の他内地の留學生の如きも漸次増加して、現在約二千名が東京初め各種の學校に入學して居りますが、其の内約一千人は大學程度の留學生であります。

斯くの如く大體に於て朝鮮の教育は長足の進歩を爲しつつあるが尙ほ最近教育制度の改正を企てられ、本年二月四日勅令第十九號を以て改正の朝鮮教育令が發布せられました、本制度改正の趣旨は大體に於て朝鮮に於ける教育の根本方針を、内地の教育制度に準據し只朝鮮の事情に依り特種の條件を加味することになつて居ります、即ち目下の状態に於ては普通學校、高等普通學校、女子高等普通學校の名稱を存して出來得る限り小學校、中學校、高等女學校の趣旨に則らしむると共に、普通學校を普及し猶新に師範學校及大學の組織を認むることとなりました、同時に總督府は民度に從ひ時勢に適應するやう内鮮人の混合教育を實施する前提として、事情の許す限り一般的に内鮮人を共學せしむる趣旨の下に從來の教育令を根本的

に改正せられたのであります。

以上は朝鮮人の教育方面に就いて述べたのであるが、在鮮内地人三十五萬人の子弟の教育機關としては小學校三百九十九校、中學校五校、高等女學校十一校、簡易實業學校六校、實業學校四校及專門學校が二校あつて、小學教育から専門教育に至るまで内地人子弟の教育施設が出来て居ります。

(ホ) 地方制度の改善

朝鮮には元古くから地方制度がありました。統監政治になつてから始めて府制、面制(町村制)が施され、民意の暢達方法として道に三名、府郡島に各二名の參事が置かれ、府に協議會、指定面に相談役が置かれました。そして大正九年八月に新總督齋藤男爵の赴任

後地方制度が改正せられて、從來の諮問機關を擴張して評議會を置くこととなり、選舉若くは任命によつて其の議員を定むることとし、一層民意を暢達し民意に基いて各般の施設をなすの途を開かれたのであります。之は内地の市町村制や府縣制に比べますと、まだ遅れて居りますが、朝鮮に於ける民度の状況からして只今では已むを得ない次第で、將來民度の向上に伴つて地方自治制度が行はれる前提として施行されて居るので、民智の啓發、民意の暢達に努めつゝある現狀であります。

(ハ) 社會救濟

社會救濟の方面に就いて云へば、昔朝鮮にも郷約と云ふものがあるが、隣保互に相救ふ習慣が存在してゐましたが、政府として貧民

に産を授けるとか、或は天災地變に際會した者などを救済すると云ふ制度は備つてゐなかつた。然るに併合の當時臨時恩賜金一千七百九十九萬圓を頂戴して、其の利子を以て貧民の生活を維持するに必要なる産業を發達せしめ、又貧民の教育、窮民の救済に投ずることになりまして、此の趣旨に基いて各道の地方費にも之を計上することとなつて、近來一層社會救済の事業が盛んに行はれるやうになりました、其處で公設市場、質屋、労働宿泊所、職業紹介所等が設置されて段々社會救済の仕事に手が着いて參りました、殊に罹災救助の如きは舊韓國時代には行届かなかつた、例へば旱魃の際など農民の餓孚道に横はるといふ有様であつたのですが、新政に浴して以來是等に對する救済の方法も相當講ぜられまして、昔日の如き悲惨な

る餓死者を見る事無きに至つた事は、寔に新政の賜物であります。斯様に朝鮮の現在は各般の事が面目を新にして、民衆の福利が著しく増進しましたから、此の點は朝鮮の人々は感謝してゐます、今後一層官民相互力を合せて、朝鮮の開發の爲めに働き、共同の利益を増殖し、新附の同胞と共に同昌共樂して太平を謳歌することの出来る様に努力したいものであります。

(ト) 朝鮮開發の補助機關

次に朝鮮開發の補助機關たる東洋拓殖株式會社、朝鮮殖産銀行、金融組合に就て其の概要を云へば

(一) 東洋拓殖株式會社は明治四十一年の設立で、農事經營、拓殖上必要なる土地の賣買及貸借、土地の經營及管理、建築物の築造及賣

買貸借、移住民の募集及分配、拓殖資金の供給、移住民及鮮人農業者に物品の供給並其の生産又は收穫したる物品の分配等の事業を経営して、朝鮮農事の改良に貢献して居ります、同會社の資本金は五千萬圓で、現在七萬五千百七十六町歩の經營を爲してゐます。

(二)朝鮮殖産銀行は大正七年に從來の農工銀行を合併して新に設立されたもので、主として朝鮮に於ける農事經營者たる個人又は團體に對し、低利資金の貸付を爲して斯業の發達に貢献しつつあります、同行現在の資本金は一千萬圓であります。

(三)金融組合は明治四十年以來地方村落銀行として各地に設立されて、資金の貸付又は預り金、種子、種苗、肥料、農具等の購入分配生産物の販賣、保管等を爲し地方産業の發達上須要の機關であります。

す、大正九年迄に於ける組合數は二百九十九箇所で、地方開發の村落銀行として内地の産業組合と農工銀行の様な仕事を行つてゐます。

三、朝鮮事情宣傳の歌

大空常にうち晴れて

稻田豊かに鶴の舞ふ

我が朝鮮の十三道

いざや廻らむ南より。

大船小船たえまなく

出入り賑ふ釜山港

こゝより鐵路歐洲へ

蜿々長蛇二千餘里。

洛東江を越え行けば

波靜かなる馬山港

その南なる鎮海の

灣は海軍軍港ぞ。

商ひ盛る大邱の

春と秋との市のさま

土を見ぬまで白々と

數萬の人々うち集ふ。

新羅の舊都慶州を
露おく野邊の石人は
貿易港の木浦府は
全南地方土肥えて
見よ全州の大平野
群山港の秋晴れに
鵲飛ぶや扶蘇の山
扶餘八景を見巡りて
荒野の草を薙ぎ棄てて
湖南線路の分岐點
海に沿はざる忠北は

訪へば草むす古き塔
今も守れり王の陵。
湖南線路の終點地
棉と竹とに名を得たり。
稻のみならぬ隈もなく
米を積出す船の數。
夕日流るゝ白馬江
古き百濟の跡を訪へ。
立てし町なる大田は
貨物集り人集ふ。
鑛産物の數多く

清州面の石橋に
半島産業開發の
正條植の試験田
京城府には總督府
人口二十有餘萬
漢江帶を延へし如
南大門の冬日和
閘門式の船渠にて
舟遊びせん月尾島
高麗朝の舊都にて
また人蔘の栽培地

立てば涼しき夕風や。
鍵を握るは水原ぞ
續く勸業模範場。
其の他官衙の數多く
朝鮮一の大都會。
山に南山、北漢山
御苑秘苑の夏木立。
汐を均らすは仁川港
江華島へも遠からず。
豪商多き開城は
日覆かけたる畑續く。

海州灣の沿岸は
 製鐵所ある兼二浦の
 大同江の岸に立つ
 遠近立てる樓臺は
 米穀鐵鑛石炭を
 廣梁灣の鹽田は
 黄金の出づる雲山の
 新義州なる營林廠
 白頭山を源に
 桁うち過ぎ船通す
 江原道の東北部

見る目遙けき耕作地
 空は熔爐の火に赤し。
 工業地なる平壤府
 過ぎし昔を物語る。
 船に積出す鎮南浦
 周圍七里に亘りたり。
 鑛區は二十平方里
 木を挽く音こそ鋭けれ。
 洋々西する鴨綠江
 東洋一の大鐵橋。
 峯の數々重なりて

水石こゝに奇を盡す
 八潭續く萬瀑洞
 萬物相の岩のさま
 元山港は東岸に
 惠山鎮は聞えたる
 灣内廣き清津は
 國境近き會寧は
 日本と支那と露西亞との
 その上流は驚が棲む
 半島すべて咲く花の
 大御代こそはめでたけれ

世にも名高き金剛山。
 瀧の霧噴く九龍淵
 魔王嘯き神怒る。
 一と榮ゆる不凍港
 筏流しの本源地。
 大船あまた宿すべく
 間島通ひの要地なり。
 境流るゝ豆滿江
 數百方里の大森林。
 匂ふが如く榮え行く
 大御代こそはめでたけれ (拓殖局作歌)

第四 臺灣事情の宣傳

一、現在の臺灣

(イ)今の臺灣は南方の樂土

臺灣はどんな所であるか。領臺以來既に二十有六年の星霜を経た今日、未だ臺灣の真相が内地の人々に充分に知られて居ないと云ふことは、實に不思議の次第であります、勿論臺灣の事情に精通されてゐる人々も尠くはありませんが、是は内地の人の一小部分に過ぎない有様で、随つて臺灣の實情が往々間違つて宣傳されて居ると云ふ事は遺憾の次第であります、現に今日でも尙ほ臺灣を目して瘴癘

に充ちた未開の地と考へ、若くは生蕃が到る處に蟠居して居るかのやうに誤解してゐる者の多いのは、畢竟するに臺灣の真相を知らぬ爲めに起る錯覺で、眞に臺灣を知る者から見ると笑ふにも笑はれぬ滑稽を感ずることすら屢々あるのです、是等は要するに内地人が臺灣に對する注意力を缺いてゐるところから起るのであります、之れが爲めに動もすば内地と臺灣との間に意思の疎通を缺き誤解を生ずなど種々なる不利益を來すことを免れないのであります。

「世の中は三日見ぬ間の櫻かな」と云ふ譬へがあります、今日の臺灣は産業と云ひ、教育と云ひ、衛生と云ひ、交通と云ひ、其の改善進歩は領臺以前と比較して雲泥の相違であります、實に今日の臺灣は南方の樂土であります。それで臺灣の面積は二千三百三十二方里

あつて、恰も九州の大きさと略等しくありまして、總人口約三百六十五萬人中、現に十六萬の同胞内地人が居住してゐますが、其の十六萬人の同胞が今日では内地の人々に劣らぬだけの文化生活を此臺灣に營んで、頗る健在に、幸福に、そして今や臺灣は夫等の人々に取つて離れ難い墳墓の地であり、忘るべからざる第二の郷土として楽しく愉快に生活してゐるのであります。

内地の人は臺灣と云へば直ぐ生蕃と云ふ事を聯想しますが、事實生蕃に首を馘られたといふ噂が同胞を脅かしたのは既に二昔も前の話で、今日臺灣新附の同胞三百五十萬人は其の殆んど凡てが漢民族であつて、所謂生蕃人は僅かに八萬人程であります、それも遠く蕃界の山地に住んで居て決して鐵道附近には居ませぬ、それ故十數年

臺灣に居る内地人でも蕃人を知らぬ人が多いのであります、夫は恰かも山國の小供が海を知らないと同じやうに、全く生蕃の顔さへ見た事のない人が此臺灣に大部分を占めてゐるのです、蕃人の爲めに危険を感じると云ふ如き事は皆昔の夢で今日では少しもそんな心配はありませぬ。又マラリヤとか、ペストとか、コレラとか云ふやうな悪疫が流行したと云ふ事も今日では昔噺の一つになつてゐる位に、臺灣の衛生状態は極めて進歩しました、マラリヤなどは市街地には全く無いと云つて宜しい、況んやペスト、コレラに於ておやであります、病院の完備と云ひ、道路の清潔と云ひ、實際臺灣から内地の観光に來た人達は、却つて内地の大都會の道路の不潔なのを見て喫驚して居る程であります。

それから臺灣は金鐵を熔すやうな酷暑が一年中を通じて、地上の人々を炎殺するかのやうに、想像してゐる内地の人がありますが、併しその誤想は眞に笑ふべき事に屬します、恰かも北海道は寒い處だ眞夏でも炬燵を擁して毛皮に包まれてゐるだらう、と思ふ人があればこんな物笑ひはありますまい。と同様に臺灣の人が未だ曾て太陽の熱に焦げ死んだと云ふ話を聞いた例しが無い、成る程臺灣は常夏の國とは申しますが、その最も暑い盛りの氣温は、決して内地の酷暑の候よりも高いものではありません、亭々として伸びた椰子の葉蔭、鬱蒼たる榕樹の下に、爽涼の氣を送り來たる緑の風は單り南國に住む人へのみ味ひ得る恩惠的な特權とても申しませうか、島國ではあるが、大陸的な、そして太陽に恵まれた明るい南の境土に

は、燃ゆるやうな眞紅の花が四時絶える事なく、情熱的なその自然には、歡喜に満ちたる樂園が隨時暖い懷ろを展いてゐるのです、臺灣は暑いのではない、夏期といふ氣候が比較的長いといふのみで、一年中の半ばは矢張り殘餘の春秋を遷してゆく事に何等變りはありません、そして年中味の善いバナナや、鳳梨、龍眼等のおいしい果物の出來る處であります。

そして市街地に於ける道路の整備と云ひ、建築の美と云ひ、教育、衛生の施設と云ひ都市としての有所文化的施設が如何にも暖國に住みよい様に完備して、今日の我臺灣は實に南方の樂土であります。

(口)内地と臺灣の連絡設備

内地臺灣間の航路は神戸から出帆して基隆に上陸するまで僅か四

日間であります、門司からであれば基隆に二晝夜餘りの三日目に着きます、神戸の米利堅波止場には臺灣航路として二つの船會社がある、日本郵船と大阪商船がそれで、何れも海岸の波止場に近い所です、出帆日は新聞に毎日廣告されてゐる。郵船ならば信濃丸と備後丸、商船ならば香港丸と亞米利加丸、何れも六千噸級の巨船で歐洲航路と同じ安全な船でありますから、安心して乗船することが出来ます。神戸から乗船する人々は先づ瀬戸内海を甲板に出て眺望を恣いまゝにする、船は門司に入港すると荷役を済まして、愈々我本土を離れて際涯限りなき波また波の海路を南行の途に就くのでありますが、玄海灘と云つても概して海は穩であります、天氣さへよければ鷗を船の伴侶として楽しい船中生活が始められる、船中には風呂

もあれば、理髮師、船醫も居る、デッキゴルフや玉突、輪投げの運動具も随意に用ふる事が出来ます、半夜を活動寫眞や芝居の餘興に楽しむ事も出来れば、又船内圖書館の設備もあつて、三日や四日の航海には決して退窟を知らないのです、斯くして船は段々臺灣に近づくに随つて潮の色は濃黒となり、氣温は稍々上昇して漸次熱帶地に近くなる事を感じられます、愈々臺灣の咽喉部たる基隆港に着きますと、先づ強烈な色彩に塗られたジャンク船が目について南國らしい色調に接します、次で喫驚することは神戸や門司では舢舨に移乗しなければ本船に乗ることも、上陸することも出来ないのに、基隆では六千噸の巨船が岸壁にピッタリと横づけにされるのです、斯様に臺灣の渡航は安々と出来る上に、基隆港には内地に見られぬ棧

橋や港灣の設備が完備して居りますから、上陸や乗船に頗る便利を感ずるのであります。

(ハ)臺灣は南洋發展の根源地

臺灣の南一羣帶水を隔てて、廣袤百六十四萬四千方哩天富無限の南洋諸島陸が、殆ど指呼の間に點在してゐます、随つて臺灣は南洋方面と各種の經濟的關係に於て重要なる位地を占めて居るのです、氣候の點から見ると臺灣は亞熱帶地で、南洋は熱帶地に屬して風土的經驗を南洋に發揮するには絶好の地域であります、現に馬來半島に在りて護謨栽培事業に従事して居る邦人は、曾て臺灣に於て事業を經營し經驗を重ねたる人々が非常に多い、又砂糖、茶、煙草、棉

花、護謨其の他栽培試作に従事するは、將來南洋方面に發展する絶好の準備、經驗となります。尤も南洋發展は多く列國との關係がありまして比律賓は米國の領で、馬來半島、北ボルネオ及ソロモン、新ギニヤ等は英國の領有に屬し、又瓜哇、スマトラ、ボルネオ、セレベス、チモール、モルカ及新ギニヤノ一半は和蘭領で、最近歐洲戰爭の結果我國の委任統治に歸した元獨逸領のマーシャル、マリアナ及カロリン三群島を除くの外は、多く英、米、佛、蘭等の各領有となつて居るのであるから、自然經濟的發展の競争となる事は蓋し已むを得ない、南洋の貿易を概觀すると現在に於て其の輸出を支配する者は米國第一で、其の輸入を支配する者は英國が第一であります、そして日本より輸入する貨物は石炭、莫大小、羽二重、燐寸、

蝙蝠傘等の類が主なるもので、又南洋から日本へ輸出する貨物は砂糖、米、麻、護謨其他工業原料であります、蓋し日本の南洋發展は一は生産品の輸出版賣と、一は原料の輸入供給を仰ぐの利便があるのです、そして我臺灣は位地竝氣候風土の類似せる點に於て、南洋發展の根據地、策源地となるべき樞要の地であります。

(二)臺灣の文化的發達

臺灣は我領土に歸して以來各般の施設其の宜しきを得て、福利の増殖したことは實に非常なもので、衛生思想の發達と云ひ、交通機關の發達と云ひ、經濟上の發達と云ひ、之を我領臺前に比較するときは眞に隔世の感があります、殊に産業の勃興發達は著しいもので、最近の生産額は五億五千萬圓を算するに至りました、斯様に異

常な進歩發達を來たした結果、民衆の福利が増進した事も亦領臺前に比し雲泥の差であります、實に我臺灣統治は殖民的經營の好標本であつて、中外の均しく認識する所であります。それで臺灣新附同胞の文化の程度は内地人に比して左程大なる差異はありません、殊に最近は教育の普及により普通教育を始め専門教育に至る迄長足の進歩を致して居ります。是は臺灣の漢民族三百五十萬人の子弟に對するのみに止まらず、今日は所謂生蕃八萬の蕃童に對しても文化の惠澤に浴せしむべく、蕃人公學校、蕃童教育所等を各地に設置して漸次皇化に霑はしめつつあるのであります。尙ほ近年内地に遊學する者多く、現に東京の大學其他の諸學校に在學して居る學生數は六百餘名に上つてゐます、是等留學生に對しては東洋協會で東京に臺

灣學生の監督部を設け、寄宿舎に收容して萬端の世話をして居りますが、何れもよく國語を話し其の容貌と云ひ、動作と云ひ少しも内地學生と異なる所はありませぬ。

二、民衆福利の増進

臺灣は我領土に歸して以來既に二十有六年の星霜を経た、此の間官民共に臺灣の統治、臺灣の開発進歩の爲に種々力を盡しました、それで幾何の費用が投下されたかと云ふと、政府が臺灣統治の爲めに要したものの即ち軍事及行政の爲めに一般會計から支出したる經費を除いて、直接産業開發の爲めに投ぜられた費用は鐵道港灣其の他の爲めにせる起債額と民間の投資額で略其の一般を推測する事が出来る、今臺灣に本店を有する會社拂込資本金額を約九千萬圓とし、工

場の資金額一億二千萬圓を合せて約二億一千萬圓であります、是れは有力なる會社の資金額だけであるから、小會社及個人關係の他の其他内地から流入したる資金を計上すれば、大約三億内外と見れば大なる間違はなからうと思ふ、これに政府の生産的事業に投じたる公債及借入金を合算する時は、尠くとも四億萬圓以上の金が直接に臺灣の生産的事業に投資せられたと見て大體誤りないと思ふ、斯う云ふ多大の費用を投じて、臺灣の開発に努力したる結果、殖産工業が異常なる發達を爲して、民衆の福利が顯著なる増進を來たし今日の成果を見るに至つたのであります。

(イ)交通機關の發達

交通方面を云ふと、臺灣現時の交通機關は電車を除くの外はあら

ゆる新式の機關が備へてゐます、鐵道網は島内を縦横に通じ、主要市街には自働車が疾驅し、又田舎に行けば在來のもので轎があります。鐵道は西部海岸地方を南北に縦斷し、之を幹線として製糖會社の専用及營業線が敷設せられ、又輕便鐵道が各地に敷設されて、トロにより山間地方との連絡をとつて居ります、西部地方と東部地方との鐵道連絡は目下着々工事進捗中であり、臺灣の鐵道網は領臺の當初に於て臺灣經綸の大計として計劃されたもので、最近に於ける鐵道の延長は官設三百六十九哩、私設一千百十五哩、軌道五百七十八哩餘に達してゐます。道路の方はどうかと云ふと、明治三十三年道路橋梁の制定が出来て以來道路の敷設改修に努めた結果、道路は明治三十二年に千七百十五里であつたのが、最近の改修道路の延

長三千百十七里となり、橋梁は同年千三百七十八箇所であつたのが、最近の架設數八千八百三十三箇所の上に上りました、まだ充分とは云へませぬが年々改修せられて漸次面目を新にしつつあるのです、併しながら都會に在りては臺北市の如き最近式のアスファルト道路が出来て、内地に於ても未だ見られぬ文明的の施設が整備して居ります。

次に海運は命令航路として内地との間は基隆と神戸、門司港との間に一週二回の定期があり六千噸級の船四隻を使用して、航海中何等の不便がありません、又基隆港を基點として臺灣沿岸航路に千五百噸以上の船三隻を以て、一箇年の航海度數が百八回以上、南支那線が四隻で月四回以上福州、厦門、仙頭、香港間を定期航海し、北

支那線は二隻で月二回、其の他南洋線即ち比律賓諸島及蘭領印度、新嘉坡等を定期航海するものが四隻月二回になつてゐます。港は基隆及高雄の良港を有して、二つながら最近式の築港計畫によつて、内地の港灣にない大規模の設備が完成して居ります。

(口) 産業の發達

産業方面を云ふと、領臺以來島内産業の振興は實に顯著なるもので、我臺灣統治成效の一半も此産業の發達進歩に依る共同福利の増進にあるは、中外の均しく認識する所であつて茲に今更喋々する必要もない、是は臺灣の土地が天然自然の恩恵に浴して居ることの外に、産業に對する官民努力の結果で、生産を豊富にして資本と科學をうまく應用したからであります。最近の生産額は工産二億七千萬

圓、農産二億五千萬圓、鑛産一千万圓、水産九百萬圓、林産四百万圓で、年額合せて五億五千万圓を算するに至りました。

臺灣の民謡に『臺灣名物何と何、砂糖に樟腦に烏龍茶、年にお米が二度とれて、山にや黄金の花が咲く』といふのがありますが、これは臺灣産業の大體を示して居ると思ひます、砂糖は島内工業の大宗であつて、領臺以來當局の獎勵は民間の努力と相俟つて、好く其效を奏し今や年産四五百萬擔に上り、内地へ移出し國內の需要を充たした上に、尙ほ支那等に輸出して居ります、歐洲戦争中には遠く歐羅巴方面に迄販路を擴張致しました。樟腦は現時世界に於ける需要の大半を臺灣から生産供給してゐます。茶は北部臺灣の名物で、其の特色ある水色と芳香とは世界に販路を有つて、輸出年額包種茶

を合して約八百萬圓に達してゐます。米の年に二度收穫せらるる事は今更云ふも古めかしく、近來品質が大に改良せられ年々百萬石内外を内地に移出して居ります。又鑛物は金の外近時炭業が、非常に發達して年産百萬噸に上り支那、香港、マニラ、新嘉坡等に輸出して居ります。水産業も亦近年著しく發展して鮮魚の儘内地及大連地方迄輸送してゐます。鹽は天日鹽法により簡單容易に製出せられ内地は固より南洋及露領亞細亞地方に販出し、猶ほ阿里山の檜材は其の長尺とまた柵目の美なる點に於て、内外に其の名が知られてゐます。

斯様に臺灣の産業が發達しましたから、貿易の方面に於ても之に伴つて逐年長足の進歩を來して、最近の貿易額は三億萬圓を超過す

るに至りました。そして臺灣の財政は明治三十八年度以來全く獨立して國庫の補助を仰ぐに及はない様になつたのみならず、四十二年度以來關稅收入の一半を割いて母國の財政を補ひ、又大正二年度以來は更に砂糖消費税をも母國に提供することになりました、今臺灣重要物産の年産額を示せば左の通てあります。

重要物産生産額

粗糖	四億八千六百二十萬斤
砂糖	一億三千七百十萬斤
糖蜜	一億三千二百二十萬圓
米	二億三千二百二十萬圓
甘藷	二千六百六十萬圓
石炭	八百八十萬圓

樟腦	七百四十萬圓
茶	六百六十萬圓
芭蕉實	三百四十萬圓
其他果物	二百八十萬圓
落花生	二百三十萬圓
帽子	二百三十萬圓
大豆	一百三十萬圓

(ハ)衛生の施設

衛生方面に就て云へば、領臺當初はマラリヤ其の他風土病が各所に猖獗を極めて、之が撲滅に關する何等の施設もなく、飲食物、市場、屠畜場竝に醫療機關の如き一として衛生的施設がなかつたので、随つて一般民衆は衛生上の觀念が甚だ幼稚で、之が爲め一度惡

疫が流行すると忽ち多數の生命が失はるる情況でありました、然るに領臺後は醫療機關を普及し、市場其の他の衛生施設を爲して文化の惠澤に浴せしめ、疾病の豫防治療等が漸次改善するに至りました、殊に領臺後間もなく後藤民政長官の創意により科學的研究所の設備が、總督府に於て設けられ、此處で熱帶醫學に關する基礎的研究が進められて、マラリヤデング熱の如き、其の他風土病の科學的研究が行れる様になつて、大なる貢獻を爲すに至りました、實に此研究所は東洋第一の評があります。醫療機關は臺北醫院を初め各樞要の地に官立十二個所、公立十八箇所建設せられ、醫師の奉職者百五十七名、又公醫は百餘名各地に配置されてゐます、此の外民間の開業醫が五百餘名あります、随つて今日の臺灣は領有當時と事變り衛生

諸般の施設が行届いた爲め、マラリヤの如きは市街地には殆んど無いと云ふ有様であります、況んやペスト、コレラに於ておやであります、斯くの如く疾病豫防、治療の點に就て非常なる進歩で一般民衆の衛生思想は著しく發達して參りました。

(二)教育の發達

教育方面も領臺當時は殆んど顧みらず、僅かに書房と稱する寺子屋式の舊式機關で、漢文習字を傳授する幼稚なるものであります、が、領臺後に到り始めて新式の教育機關が設けられて教育の振興が曙光を認むることとなりました、最近は普通教育を始め専門教育に至る迄長足の進歩を致して、新附同胞の文化は著しく向上し内地人の文化の程度と左程大なる差異はありません、公學校(小學校程

度)の數は四百四十八で、就學兒童十三萬人に達して居ります、中學校は一校で生徒數三百四十三人、高等女學校は二校で三百二十二人、實業學校は三校で三百四十人、簡易實業學校が二十四校で生徒數八百四十二人、師範學校は内鮮人共學で一千二百十九人、専門學校三校は商業専門一、醫學専門一、農林専門一を有して生徒數三百九十二人を收容してゐる。又内地には約六百名の留學生があつて、大學其他の諸學校に入學して居ります。以上は漢民族三百五十萬人の教育機關であるが、此外生蕃の爲めには蕃人公學校及蕃童教育所を各地に設けて、蕃人の教育に努め皇化の惠澤に浴せしめつつあります、皇恩蕃界に霑ひ蕃童が國歌を唱し、各種質問に答ふる場合は感慨胸に迫るを禁じ得ないのであります。是等は何れも總督

府又は州廳の設立に成る官公立學校であります。其外に私立に係るものが尠くありません。尙ほ臺灣の普通教育は單り島内のみならず、對岸南支の福州、厦門、汕頭などに在住してゐる臺灣籍民の子弟に對しても、特に希望に依つて夫々學校を設立して教育の普及を圖つて居るのであります。

斯くの如く臺灣の教育は長足の進歩を爲しつつありますが、最近教育制度の改正を企てられ、本年二月四日敕令第二十號を以て改正の臺灣教育令が發布せられました。本制度改正の趣旨は大體に於て臺灣に於ける教育の根本方針を内地の教育制度に準據し、只臺灣の事情に依り特殊の條件を加味することになつて居ります。尙ほ新に大學の組織を認むることになり、同時に總督府は民度に従ひ時勢に

適應するやう内地人と臺灣本島人の混合教育を実施する前提として先づ事情の許す限り一般的に共學せしむる趣旨の下に從來の教育令を根本的に改正せられたのであります。

以上は主として臺灣人に對する教育施設であります。在住内地人十六萬の子弟に對しては小學校が百二十八校あつて、一萬八千人の兒童を收容してゐます。中學校は二校で生徒數一千百十六人、高等女學校は四校で九百十四人、實業學校が二校で三百三十七人、専門教育機關としては高等商業學校、醫學専門學校があつて、内地人子弟の教育に便してゐます。

(ホ) 地方制度の改善

次に地方制度に就て云ふと、從來は中央集權で地方公共團體と云

ふ意味は少しも含まれて居なかつたのであるが、田男爵が新總督になつてから民度の發達、時勢の進歩に適應するやう地方制度の根本が確立せられたのであります、即ち大正九年九月に地方制度が改正せられて、從來の十二廳を廢して新たに五州二廳に分割し、五州は之を三市四十七郡に小分し更に郡の下には二百六十の街庄（町村）を置くこととなりました、そして州は大體内地の縣と同じ様で、知事を任命して地方の政務に當らせると同時に、一面には地方の上級公共團體として地方公共事務を處理せしむるのであります、郡は臺灣に在りては全く新たなる制度で街庄の事務を直接に監督するものである、又市は現在臺北、臺南、臺中の三市で法制上内地の市と同様に教育、土木、衛生等各般の公共事業を經營することが出来る能

力を賦與することとしたのであります。

從來の制度によると地方の官吏は支廳長以下殆んど全部が警察官であつたのが、今度は文官をして地方政務に當らしむることとなつて、州知事に警察の指揮權を持たし内地と同様な制度となつた、又郡守にも警察指揮權を持たせたが、本來郡は行政機關であつて、内地の如く郡制を布くのでないから、之を地方公共團體と認むることは出来ない、此の點は全く内地と違つて居る、そして市制を施行する市に於ては別に警察署を置き市長には警察權がないのである、以上が地方制度改革の大體であります、尙ほ臺灣の現狀に照して除外例を設けたのは、蕃地に對する施設であつて蕃地を包含する郡に在りては郡守が警察執行權を持つてゐる、併し段々蕃人の教化が進

んで行くに従つて徐々に之を一般行政區域に編入する方針なのであります、除外例のも一つは東海岸の花蓮港廳と臺東廳の二廳管下で、此方面は人口も極めて稀少で亦土地の事情が一般の行政を布くに不適當であるから、暫らく舊制度を施行してゐるわけであります。

前述の如く既に州、市、街、庄を以て地方の公共團體と認むる以上、此公共團體の事業や、地方税の徴收なり或は公共事業の經營なりを議決する機關が必要であります、臺灣の現状はまだ其の政務や公共事業に參與した經驗もないのであるから、暫らくの間諮問機關として協議會を置くこととなり、市、街、庄の長を官選とすると同時に其の協議會員をも官選によつて定むることとし、一層民意を暢達し民度に基いて各般の公共事業の施設經營をなすの途を開かれ

たのであります、是れは臺灣の現状已むを得ない云はば過渡時代の施設であります、追々臺灣民衆の公共事業經營に慣熟し又民度が發達して公共事業經營の能力を發揮する場合、自から公選の決議機關たらしむべき前提として施行されてゐるので、臺灣新附の同胞も此の邊をよく了得して、一層民度の啓發に努め一日も早くかゝる時代の速かに來らんことを期待する次第であります。

(へ) 社會救濟

社會救濟の方面に就て云へば、昔臺灣にも嬰兒の養育、貞婦寡婦の救恤又は窮民の救助等各種の社會救濟的の施設があつたけれども、其の制度も完備せず又領臺當時は是等も一時廢絶に歸したのであります、然るに我領有後統治機關の整備と共に之が再興を計つて、

偶 英照皇太后陛下の御大喪に丁り慈惠救濟資金の御下賜があつて在來の慈惠施設を併合し、其の御下賜金を分配して基本財産に加へ全島に五箇所の慈惠院を開設することとなりました、併しながら是等の設備は未だ島内一般の窮民に及ばないのみならず、天災地變等の災厄に對しては尙ほ別に備ふる必要があるから、明治三十二年十二月に臺灣罹災救助基金規則を發布して非常の災害に備へ、同年勅令を以て行旅病者及行旅死亡人取扱法を施行し、臺灣窮民救助に關する規則も發布して各種の方法を講じ、前記の慈惠施設と相俟つて社會救濟の事業を爲して居るのであります、

尙ほ臺灣の救恤機關としては此外に 明治天皇御大喪に丁つて下賜せられたる御内帑金を基金として、大正元年十一月恩賜財團明治

救濟會を設立し慈惠救濟の事業を經營してゐます、其の後 昭憲皇太后大喪に際して頂戴した御下賜金も併せて、その基本金と致しまして皇恩の惠澤を永遠に浴せしむることに努めて居る次第であります、又 今上陛下御即位の大禮に方り地方賑恤の資として下賜せられました御内帑金を基本金として恩賜財團大正救濟會が設立されました、其他感化院、成徳學院、三成協會、臺灣婦人慈善會、仁濟團 爲善團等公設或は私設の團體もあつて、臺灣民衆に對する社會救濟上遺憾なきを期しつつあると云ふ事は、洵に總督施政の賜物であると思ひます。

第五 樺太事情の宣傳

一、現在の樺太

樺太はどんな所であるか。我版圖に歸して以來既に十七年の星霜を經た今日でも、猶樺太の事情がよく内地の人に知られて居らぬ、否同胞が樺太の事に就て比較的無頓着であると云ふことは如何にも遺憾の次第であります、見よ樺太は二千三百三十九方里の廣い地域を有つてゐるにも拘らず、人口は僅かに九萬有餘で、一方里四十人の密度に足らないのです、内地の人は樺太と云へば、氷山雪野を聯想し、猛獸横行の地と曲解し、互寒は到底内地人の生活に堪えざるもののやうに誤解して居る人々が多い様であります、是が抑も大な

る謬りでありまして、つまり樺太に關する智識が乏しいのに基因するのです、緯度から申しましても佛蘭西や獨逸と殆んど同緯度の處に位して、加ふるに暖流が沿海を洗つて居りますから、冬の極寒の候でも凍死するやうな心配は決して無いのであります、現に樺太廳所在地の豊原町の如きは滿洲奉天と冬季の溫度が同じてあります、随つて樺太の氣候は内地人の生活に不適當のわけが無いのであります、之を實際から見ましても樺太には悪疫は流行せず、風土病は絶無で、移住内地人は頗る健康にして、冬季最寒の候に於ても戸外の勞働に何等の障害なく、バルブ製造の原料材其他木材の伐採を冬の事業として働いて居るのです。そして樺太の富源は此無盡藏な森林事業やら、豊饒たる沃野の開拓やら、鑛産物の採掘並に世界の三

大漁場の一と稱せらるる水産業の發達等に官民共に努力しつつあるの
てありますが、この無限たる帝國北門の寶庫を開發する爲めには、
意氣あり希望ある健實の同胞がどしどし樺太へ移住して、その開發
進展に貢獻すると同時に一身一家の計を樹つべく新運命を開拓せら
れむ事を期待する次第であります。

(イ)内地と樺太の連絡設備

内地樺太間の連絡船は、樺太廳命令航路船及遞信省命令航路船が
ありますが、此の外に社外商船を加へて三つの連絡航路があります。
樺太廳命令航路船は東海岸線と西海岸線の二航路があつて、東海岸
線は四艘を以て北海道小樽港を起點として樺太の東海岸各港を往復
し、西海岸線は四艘を以て内二艘は小樽を起點し、他二艘は富山縣

伏見港を起點として樺太の西海岸各港を往復します。又遞信省命令
航路は二艘の汽船を以て函館港を起點とし、小樽を経て樺太に到る
定期線であります。それで渡航の道順は出發地に依つて違ひます
が、樺太へ直航船のある場合の外は、北海道の函館若くは小樽から
命令航路船たる日本郵船會社又は北日本汽船會社の定期船に乗る
か、或は出帆の都合では他の社外船に乗つて渡航するのです、函館
又は小樽よりの定期船は概ね一千噸以上の巨船でありますから海上
何等の危険なく、小樽から約二十時間で樺太の咽喉部たる大泊に到
着します、函館からなれば約二晝夜を要します。斯様に内地樺太間
の連絡は今日一晝夜内外の短日時で安々と渡れるのであります。

(ロ)樺太は帝國發展の北門

樺太は狭長なる形を成して南北に長く百十六里、東西は最も廣い所で四十里、狭い所は僅かに八里で、總面積二千三百三十九方里にして臺灣よりは少しく大に、九州よりは稍小であります、それで南は二つの岬が長く突出して亞庭灣を擁し、北は北緯五十度を限つて露領薩哈連に界し、東は渺茫たるオコツク海に面し、又西は間宮海峽を隔てて露領沿海州と相對して居ります、随つて樺太の位地は北サガレン、東沿海州方面と接近して極東西伯利へ日本の文明を宣傳進展せしむべき帝國發展の北門であります。

(ハ)内地人發展の現状

大正九年十月一日現在の國勢調査によれば、樺太の人口は十萬五千七百六十五人であります、樺太は位置、地形、海流等の關係上氣

候に著しい變化がありまして、夏季は比較的溫暖であるが、冬季は著しく寒冷となります、それで氣候と産業との關係は時季によつて在住人口に相違があるのです、即ち漁業期節のみに出稼する漁民或は土木工事等の爲めに一時渡來する者がありますから、夏季と冬季に於ける住民の數に差異があるわけです、大正八年十二月末現在の人口は八萬四千八百四十五人で、同年の夏季に於ける住民數九萬三千人に比し八千人からの相違があります。

樺太は朝鮮、臺灣と異つて住民の殆んど全部は内地人でありまして、土著人即ち樺太アイヌは僅かに二千人足らずのものであります、在住内地人の職業別は漁業者の三萬人を筆頭として、農業者一萬七千人、商工業者一萬六千人の順位になつてゐます、近年樺太富源の

眞價が一般に認識せられて、樺太廳が移民招致に努めた結果、永住土着の目的を以て堅實なる農業者が年々増加しつつあるは帝國北門の寶庫開拓上洵に喜ぶべき現象であります。

二、共同福利の増進

(イ) 交通機關の發達

交通方面を云ふと、鐵道は現在大泊から樺太廳所在の豊原町を経て榮濱に達する本線五十六哩と、小沼より分岐して奥上川に至る支線八哩及西海岸本斗から眞岡に至る三十哩と工事中の眞岡、北方野田寒の三十哩に及んでゐます、尙ほ東西兩海岸を連続すべき豊原、眞岡間を通ずる鐵道敷設の計劃も出來て開通の上は一層の利便を來たすことになりす。又道路は島内樞要の地を連續する幹線道路は

大泊より豊原を経て榮濱に至る二十五里、大泊富内間十六里、豊原眞岡間十九里、野田寒廣地間十五里、泊居久春内間七里の間に開通し、此の外部の内外を通ずる農村道路は各地に開鑿せられて、其の延長七十三里餘に達しました。尙ほ海運は前記内地樺太間連絡の日本郵船及北日本汽船の兩會社定期航路の外に、不定期の社外線航路があつて、多くは函館又は小樽を起點として大泊、眞岡方面へ出入し、又東西兩海岸の各港に航行してゐます、其の他物資移入の爲め北陸地方から來航するもの及木材其の他樺太物産輸出の爲め朝鮮支那方面に航行するものも近來頻繁になりつつあります。

(ロ) 市街及部落の發達

人口の増殖と地方の開發に伴ひ、市街宅地及部落宅地を測設し

て、大正四年には全島を十七郡に分ち更に郡を分つて町村となし、郡町村の區域名稱を新に定めて郡の下に四町五十九村を設けた、市街地中最も發達して居るのは豊原、大泊、眞岡の三町で、大泊及眞岡町は内地連絡上の重要寄港地であります、其の他最近急速に發達せる處は泊居町及野田寒であります、久春内、敷香、元泊、榮濱、本斗等も漸次發達して市街地を形成しつつあります、就中本斗は目下築港工事施行中でありますから、完成の上は物資の集散地として大に般賑を來たすであらう。又部落は中央平原の諸川の流域に一、二里を隔てて十數戸乃至數十戸、多きは百戸以上から成る農村部落が出來、中部以南の東西沿岸及亞庭灣沿岸地方には一里餘を隔てて數十戸乃至百餘戸の農村部落が出來てゐます、殊に眞岡町の左右各

五、六里間は漁民の住家が相連つて般賑を呈して居ります、そして中部以北の東西海岸は主として漁村部落であつて農村は未だ極めて少ない、斯様に現在の樺太は内地の人々の移住によつて急速に發達しつつあるのであります、之を我領有前に顧みれば實に隔世の感があります、今後益々内地人の移住増殖に伴つて市街及部落の發達と共に此の新領土の開發を期待して止まぬ次第であります。

(ハ)産業の發達

樺太の産業は我領有前即ち露領時代に比すれば、其の發達は非常なもの、今や年産額二千萬圓に上り、農産物三百萬圓、林産物百餘萬圓、水産物一千五百萬圓、其の他の鑛産及工産物等著しく生産を増加致しました、農業は地味極めて肥沃で開墾して數年間は無肥料

て相當の收穫があります。露領時代には農耕地として利用せられた土地は少ないから新たに農業を営むには未開の原野を開墾するのでありますが、作物は大麥、小麥、裸麥を始めとして麥類は何でもよく出来ます。馬鈴薯、豌豆、蠶豆、大麻、亞麻、薑薑薄荷其の他蔬菜類等北海道地方で栽培する作物は樺太に好適してゐます。又島内は牧場に富んで居りますから、牧畜は頗る有望にして、近來農家の副業として漸次發達の域に向つて居ります。林業は近年バルブ工業が異常なる發達をなして樺太の代表的工業となりました。樺太の森林は古來斧鉞の加はらざる原生的天然林で、其の面積三百有餘町歩に及んで總面積の約九割の地は蒼鬱たる森林を以て覆はれて居ります。樹種は針葉樹が最も多く三分の二を占めて、潤葉樹が之に次

ります。色は白色又は帯白色で材質稍軟らかにしてバルブの原料其の地建築用材に適し、或は杭木、枕木、角材等として内地、朝鮮及支那方面へ盛んに輸送して重要産物であります。水産業は樺太産業の首位を占めて年々漁獲高を増加して、或は鹽藏となし或は罐詰として歐米迄も販路を擴げて盛んに輸出することとなつて、近年長足の發達を來たしました。其の重なるものは鱈、鱒、蟹、鱈、昆布及鮭等であります。鑛業は未だ島内の需要を充たすに止まると雖、石炭、砂金、其の他諸鑛物頗る豊富で就中石炭は無盡藏と稱せられてゐる、随つて樺太今後の開發は鑛産物の發掘、鑛業の發達に大なる關係を有すと云つても過言でないと思ひます。

重要物産生産額

バルブ	一千八十萬圓
魚粕	六百二十萬圓
罐詰	二百二十萬圓
鱈	百六十萬圓
鯨其他	百三十萬圓
鱈	百二十萬圓
木材	百萬圓
農産物	三百萬圓

(二) 教育及衛生の施設

教育方面を云へば、移住民の増加と共に教育機關は各地に設置せられ、主要市街地には廳立小學校を、部落地には補助金を交付して

部落住民共同の私立小學校の設立を勸奨し、續いて廳立中學校及び高等女學校の設置を爲すに至つて、普通教育から中等教育に至る迄長足の進歩を致して居ります。小學教育に關しては明治三十九年豊原町と大泊及眞岡に廳立尋常高等小學校を設置したるを始めとして、大正九年八月末現在廳立小學校四、私立小學校百二十八校に達し、就學兒童一萬三千人を收容して國民教育を授けて居ります、中學校は大泊に高等女學校は豊原に設置せられ、其の他私立女學校一、實業補習學校、小學教員養成所も設置してあります。

此の外土着人即ち樺太アイヌ人の啓發に關しては、必要の箇所には教育所を設け教員を配置し内地人小學校に準じて教育して居ります、程度は内地人小學校よりは勿論劣つてゐますが、該教育所の數

は十一箇所あります、外に小學校に委託せるものが一箇所あります。次に衛生方面に就て云へば、樺太には特殊の風土病なく、傳染病の如きも殆んど流行しませぬ、氣候風土が内地人の健康に適して衛生状態は頗る良好であります、醫療機關としては豊原、大泊、真岡の三個所に廳立醫院が設置してあります、その他樞要の地四十三箇所に公醫が配置せられ、又開業醫は各地に於て診療に従事して居りますから、疾病の豫防治療に關しては左程心配はありませぬ。

三、樺太移住の獎勵保護

(イ) 移住民に對する施設

樺太には移住民を收容し得べき農業及牧畜業適地は概算四十五萬町歩ある、其の内樺太廳に適て第一期殖民地として選定を了したる

土地は、農耕適地七萬五千町歩、牧場適地五萬九千町歩、改良後農牧適地一千六百町歩、泥炭地七千五百町歩總面積十三萬四千町歩に達して、前記農業及牧畜業適地の約三分の一に相當して居ります。

選定調査を終へたる殖民地は土地の整理並に移住民の收容に便する爲め區劃が測設してあります、區劃は縦横に基線を施して一區劃三百間平方とし、之を四分又は六分して一少區劃を作り、七町五反歩又は五町歩を標準として普通農家一戸の收容地に充てます、此の外道路敷地、風防林、部落宅地、公共用地、共同放牧地等を豫定して置きます。部落宅地の區劃は農村及漁村に分ちて、農村部落宅地は主として殖民區劃地に、漁村部落宅地は沿海各地の漁村を形成する見込の地に測設せるものであります、一戸分の面積は前者は九百

坪、後者は三百坪乃至六百坪を普通としてゐます、又市街を形成する見込の場所には市街宅地を測定して置きます。その他農業及牧畜業適地でも低濕の爲め土地改良を要する處には排水溝を掘鑿し、或は補助金を交付して排水の施設或は農耕道路の關鑿を獎勵して居ります。

(ロ) 土地の處分

區劃を測設したる土地は移住民に隨意獎約に依り貸付又は賣拂を爲す、其の區域は市街宅地、部落宅地及殖民區劃地其他土地整理上支障なき箇所、之を特定地と稱して居ります、處分の方法は貸付、讓與、賣拂、交換の四種類であります、此の外必要に應じて土地の無償貸付、成效讓與の方法があります。貸付地積及期間は左

の通りである

- (一) 市街宅地及部落宅地 一千五百坪以内
- (二) 耕作を目的とする土地 九萬坪以内
- (三) 牧畜を目的とする土地 五十萬坪以内
- (四) 其他の土地 一萬坪

尙ほ第四項の土地は會社又は組合に對しては其の面積を五倍迄増加することを得、又重要生産品製造業に對しては貸付面積に制限しない、貸付期間は無償貸付は十ケ年、有償貸付は十五ケ年、造林又は泥炭地開墾は二十ケ年であります、尤も是等貸付地積及期間はその最大限を示したるものであつて、一般貸付の標準は別に定むる所に依るのであります。

(ハ) 移住者の心得

斯様にして樺太移住民は官有地の貸付を受け、其の開墾に精勵するときは四、五年にて開墾完成し、其の土地を無償で譲與せらるるのであります、即ち樺太で地主になれるのであります、尙ほ移住に就ては移住手續、移住の期節、渡航の準備及道順、汽車汽船の割引、途中休泊所、移住後の保護及特典、其の他移住に關し種々の事項を豫め知る必要がありますから、詳細は直接樺太廳又は伏木、青森、函館、小樽の諸港に在る樺太廳移住民取扱所に問合せられたし。

尙ほ樺太廳東京出張員事務所は麻布區飯倉片町十二番地にあります。

第六 滿蒙事情の宣傳

一、現在の滿洲

滿洲はどんな所であるか。南滿洲の野に我同胞が進展し初めてから既に十七年の星霜を経ました、當初多少露國の規畫經營の跡を受け繼いだとは云へ、それは未だ創業早々の時代で殆んど完備したものは無かつたのであります、然るに之を繼承したる我同胞は二十年足らずの歳月に於てなしたる今日の滿洲に於ける文明的施設は、實に顯著なるもので彼我兩民族の生活幸福を増進したことは、中外の均しく認識する所であつて茲に喋々するまでもない事であります。

現在の滿洲は露西亞の經營時代に較べその文化的發達を見るに實

に隔世の感があります、先づ南滿洲に遊ぶ者は市街の建設商港規模の雄大にして般盛なる、鐵道の運用鐵鑛炭山の開掘等その事業の壯大に經營せられてゐるに喫驚致します、大連、奉天、長春其の他の都市建設の如き決して容易でない、是等の都市と雖も勿論完全なる理想的都市と云へないが、内地の大都會と比較して文明的施設の點に於ては寧ろ優れる所が多い、第一道路の如き我帝都東京市の夫れとは殆んど比較にならない堂々たるものであります、坦々たるアスファルトの大道路の兩側には並樹青々と繁り、交通に便なる整然たる區劃、凡て煉瓦造の建築物其他上水、下水の水道工事の完成と云ひ、公園の設備と云ひ、教育及衛生上の施設と云ひ立派な文明的都市であります、就中滿洲第一の商港たる大連埠頭は規模の宏大なる

内地に其の比を見ないのであります。

(イ)内地と滿洲の連絡設備

内地滿洲間の連絡は二つの経路があります、即ち朝鮮經由汽車で行くのと、神戸若くは門司から乗船して汽船で大連に上陸するのであります。朝鮮經由であれば下關から關釜連絡船に乗つて釜山迄半日、京城迄一日、奉天迄二日で到着します、奉天と大連間は半日要します、それで釜山奉天間は毎日二回直通列車があります。又海路に依る場合は大阪商船會社内地大連間航路によつて、神戸若くは門司から乗船します、門司出帆は毎週二回月曜日及木曜日の定期で門司から二晝夜足らずで大連に入港致します、即ち門司を午後一時に出帆して翌々日の午前中に大連に着くのであります、海路に依る場

合神戸門司間は鐵道省線又は大阪商船會社汽船孰れに由るも旅客の隨意であります、斯様に内地滿洲間の連絡は今日非常に便利になつて陸路、海路孰れに由るも二日内外の短日時で到着出來ますが、尙ほ内地朝鮮滿洲巡遊の旅客に便せん爲め日鮮滿巡遊券を發賣して居りまして賃金の割引優待を致してゐます、その割引は各鐵道及關釜連 船二割引、大阪商船會社一割引、通用期間六十日間で海陸孰れの順路を選ぶも旅客の隨意になつて居るのであります。

(口) 滿蒙は日本文化宣傳の舞臺

滿洲は距離及交通關係に於て日本に最も利便な地域であります、西は廣漠たる蒙古の野に續き、南は京奉鐵道に依つて首府北京と相通じ、北は東清鐵道に聯絡し支那に於て現時最も未開發の利源たる

黑龍、吉林兩省に通じて居ります、隨つて日本が南滿洲に經濟上及文化的發展に力を扶植すれば自然に其の力は蒙古に擴がり、一方に於ては北滿に手が延びる、北滿に手が延びれば西伯利に手が延びて行くのは順序であります、そして日本は支那と相提携して西伯利に臨むことが出来るわけであり、此の意味に於て滿洲は決して支那だけに對する關係に止まらぬ、露西亞に對して經濟的、文化的發展の根源になる、斯の如く滿蒙は重要なる意義を有つて居るのであります、此滿洲に於て日本の公正なる態度と至純なる誠意を以て日支兩民族共存共榮主義の下に相提携して日本が文化的發展をして行けば、日本は自然東西南北に擴がる事が出来る、領土的侵略的でない所謂文化的、經濟的植民を爲して共同の福利を増進し自他共に幸

福を享得する事が出来るのであります、つまり東洋共通の利益を圖り東亞民族の同昌共樂ができる、此の意味に於て滿蒙に於ける日本の文化的發展は頗る重大で東洋問題を解決する所の根本地點であります、即ち滿蒙は日本文化宣傳の舞臺たるべきものであります。

(ハ)内地人發展の現状

其處で滿洲に於ける日本人の現住人口はどうであるかと云ふと、外務省調査に係る大正九年六月末現在内地人の總數は二十一萬二千四百九十四人で、内日本の租借地關東州に六萬九千人、滿鐵附屬地に六萬二千人、その他各地に八萬二千人といふ分布であります。此外朝鮮人の在滿者約百萬居ります、さて滿蒙の地域はと云ふと所謂滿蒙たる語の含む區域は確定的のものがない、我國の滿蒙に於ける

種々の條約協定等によつて認められてゐる特殊地域は漠然南滿洲と東部內蒙古を指すのであります、之れに北滿洲を加へると其の總面積は七萬四千四百方里で、人口約二千四百四十萬人ありまして之を我國に比すれば日本全版圖の面積より遙に大にして、人口に於ては僅かに其の三分の一に足りない、一方里平均三百三十人といふ密度に過ぎませぬ、そして同胞内地人の集中してゐる地方は今日のところでは南滿洲の關東州及鐵道附屬地であつて其の他の地方は未だ極めて僅少なるものであります。

(ニ)滿洲の文化的發達

我同胞が南滿洲の地に進展してから二十年足らずの歲月に於て滿洲の資源を開發し、其の文化を向上せしめ彼我共同の福祉を増進し

た事は著しく大なるものであります、勿論滿蒙の地域は頗る廣大でありますから、經濟上文化上の發達は是れ丈け歲月と努力を要するわけでありまして、滿蒙居住民一般が文化の惠澤に浴すると云ふことは吾々同胞が負ふ所の大なる使命であります、今日同胞内地人が主として發展して居る關東州及南滿鐵道沿線の滿鐵附屬地一帶に於ける文化的、經濟的發達を見るに、交通及運輸機關の發達整備は申す迄もなく、沿線各地に於ける教育の施設、病院其他衛生上の施設、製鐵炭礦、其他殖産工業の發達、電燈、瓦斯、建築等都市の發達に關する文明的施設、地方行政に屬する一般の施設等恰も滿洲が東西兩洋の文明融合の理想境を實現しつつある感があります、而して是等の文化的、經濟的、社會的事業は主として滿鐵會社が滿

蒙開發の機關としてその任務を有し、その使命を貫徹すべく期待しつつあるのであります、滿鐵會社は半官半民の株式會社で(イ)鐵道業、(ロ)鑛業殊に撫順及煙臺の炭坑採掘、(ハ)水運業、(ニ)電氣業、(ホ)倉庫業、(ヘ)鐵道附屬地に於ける土木、教育及衛生に就き必要なる施設、(ト)其他政府の許可を受けたる事業を經營する營利的經濟的事業と公共的文化的事業との二方面を兼ねたる國家的事業會社であります、そして滿鐵現在の資本金は四億四千萬圓にして、大正九年度末同社興業資金の投資額四億三千萬圓に上り、此外關係事業投資額大正十年八月現在五千萬圓を算して居ります。斯様に滿蒙開發の爲めに滿鐵會社が文化的、經濟的事業に投資經營を爲して居りますが、其他日本人の會社、日支合辦の會社及個

人關係のもので日本内地から流入した資金を合算すれば頗る莫大の費用が滿洲開發の爲めに投ぜられてゐる、随つて今日滿洲の同胞發展地に於ける日支兩國國民の共同福利の増進、文化の向上は之を十七年前の露國經營時代に較ぶれば、實に驚るべき進歩でありまして昔の滿洲を知つてゐる人々は隔世の感に堪えない次第であります。

二、共同福利の増進

(イ)交通機關の發達

交通方面を云へば、南滿洲に於ける鐵道は明治四十年南滿鐵道會社が引繼を受けた當時の鐵道は、大連長春間の本線及同支線全部軌間三呎六吋の狹軌式のものであつた、又安東奉天間の安奉線は二呎六吋軌間の輕便軍用線に過ぎなかつた、然るに滿鐵會社が引繼を

受くるや全線廣軌改良工事に着手し非常なる困難と費用を投じて、先づ本線大連長春間の改良工事を竣成し、尋で安東奉天間輕便鐵道線の改修を遂げ、又大連蘇家屯間の復線工事も出來ました、斯様にして本線にも廣軌車が動けば、各支線にも安奉線にも廣軌車が運轉することとなつて、今日其の營業哩數六百八十六哩、線路延長一萬四千二百九十哩に達し滿蒙の幹線を達成するに至つた事は、世界交通史上に一新紀元を劃せるものにして、之れに依つて中華民國の文化に及ぼす影響の顯著なる元より贅言を要しませぬ。此外滿洲には長春以北の東清鐵道延長一千六百哩、京奉線及滿鐵接續線等支那政府の四百五十哩あつて、即ち滿洲には南北を通じ約二千七百哩餘の鐵道があります、尙ほ將來日本の資本によつて敷設せらるべき滿蒙

場、屠畜場等の設備は勿論、その他街衢の施設、宅地の修築等市街に屬する一切の工事に着手し又電燈、瓦斯事業の經營、家屋の建築貸與等に力を盡したる結果、今日大連、奉天、長春、撫順、鞍山を初め瓦房店、大石橋、遼陽、鐵嶺、開原、四平街、公主嶺、安東、本溪湖等何れも近世都市たるの盛觀を呈するに至りました、又從來支那人が極めて非衛生的なる家屋に居住するのが、滿鐵の建築家屋を貸與せらるるに及んで滿洲奥地も茲に一變して、今や附近住民の生活は漸次改善向上するに至りました。

(八) 衛生の施設

内外人の移住増殖に伴つて醫療機關其他衛生施設の整備に努めたる結果、今日は漸次完備の域に達せんとして居る、唯支那人の多

數は猶文化幼稚にして土地廣く、且常に移動して止まざる苦力の大群があるから、衛生思想の普及は容易の事でない、併し近時鐵道附近に於ては一般に衛生の状態年と共に改善しつつあるは喜ぶべき所であります。滿蒙に於ける診療の機關は個人經營のものを除き、關東廳の直轄に屬するものと、赤十字社の經營に係るものと、滿鐵會社經營のものと、三大系統に分かたれてゐます、關東廳直轄に屬するものとしては旅順に關東廳醫院、大連及旅順に傳染病患者收容の療病院がある、此外特に婦人病患者收容の爲めに大連に婦人病院が設けられてゐます、日本赤十字社所屬のものは奉天、吉林等南北滿洲に涉り十三の日本赤十字病院が散在し、總て支那町に設置せられて下層支那人救護の目的の下に活動し文化の惠澤に浴せしめて居り

五鐵道並に吉會鐵道が完成せられた曉には之に凡そ一千五百哩を増加する譯である、此等未成線は滿洲及蒙古の富源を開發する重大なる任務を有するものであります。次に海運に就て云へば滿洲第一の商港たる大連港は年五百萬噸の貨物を吞吐し、其の設備は露國經營時代に一千萬留を投じ未完成であつたのを滿鐵會社が更に修築し、約三千萬圓を投じて之が完成を計つて今日に至つたのであります、現在一萬數千噸の汽船を横付けに繋船し得る繋船岩壁の長さ七千尺餘、更に長二千尺、幅四百尺の突堤を築造中であります、埠頭構内には倉庫及上家が七十棟餘も出來、此外二十萬坪の野積場がある、入港汽船數は三千隻の多きを算するに至り、鐵道引込線は之を三十五哩に延長し其他設備も亦東亞有數の要港たる整備を見るに至り

ました、定期航路は大阪商船、日本郵船、大連汽船、滿鐵會社、阿波共同汽船、三井物産會社、政記公司等があつて、滿洲内地間、滿洲支那各港間、朝鮮仁川航路、遠くは大連マニラ線、大連シアトル線の定期航海をなしてゐます。

(ロ) 市街の建設

南滿洲を貫通する七百哩の滿鐵停車場所在地は概ね地積が廣く市街を經營することが出来る、然るに我國が引繼當時は大連を除いては殆んど市街の體裁を具へたものはなかつた、それを滿鐵會社が重要なる附屬地に文明的市街を建設する大方針を樹てて、業務開始と共に先づ十五箇所の樞要地を選定して市街區劃を立て、道路、堤防、護岸、橋梁、溝渠等の築造、水道、下水、公園、市場、墓地、火葬

場、屠畜場等の設備は勿論、その他街衢の施設、宅地の修築等市街に屬する一切の工事に着手し又電燈、瓦斯事業の經營、家屋の建築貸與等に力を盡したる結果、今日大連、奉天、長春、撫順、鞍山を初め瓦房店、大石橋、遼陽、鐵嶺、開原、四平街、公主嶺、安東、本溪湖等何れも近世都市たるの盛觀を呈するに至りました、又從來支那人が極めて非衛生的なる家屋に居住するのが、滿鐵の建築家屋を貸與せらるるに及んで滿洲奥地も茲に一變して、今や附近住民の生活は漸次改善向上するに至りました。

(ハ)衛生の施設

内外人の移住増殖に伴つて醫療機關其他衛生施設の整備に努めたる結果、今日は漸次完備の域に達せんとして居る、唯支那人の多

數は猶文化幼稚にして土地廣く、且常に移動して止まざる苦力の大群があるから、衛生思想の普及は容易の事でない、併し近時鐵道附近に於ては一般に衛生の状態年と共に改善しつつあるは喜ぶべき所であります。滿蒙に於ける診療の機關は個人經營のものを除き、關東廳の直轄に屬するものと、赤十字社の經營に係るものと、滿鐵會社經營のものと、三大系統に分かれてゐます、關東廳直轄に屬するものとしては旅順に關東廳醫院、大連及旅順に傳染病患者收容の療病院がある、此外特に婦人病患者收容の爲めに大連に婦人病院が設けられてゐます、日本赤十字社所屬のものは奉天、吉林等南北滿洲に涉り十三の日本赤十字病院が散在し、總て支那町に設置せられて下層支那人救護の目的の下に活動し文化の惠澤に浴せしめて居り

ます、又滿鐵會社經營のものは現在十五の醫院と五個の分院、竝に是等の醫院所在地外の處には公醫を配置してあります、尙ほ支那人に對しては特に仁術の德澤を普及せしむる爲め特別の分院三箇を設けてあります、斯様にして移住内地人の疾病診療を圖ると共に支那人に對し衛生思想を普及し疾病豫防治療に就き深甚の考慮を費し、幾多の努力を惜まず共同の福祉を増進しつつあるのであります。

(二) 教育の施設

滿蒙に於ける日本の文明的教育施設は滿鐵會社の外、關東廳、居留民團、居留民會、東洋協會等に依つて經營せられて居ります、其の主なるもの總數百三十校にして、内滿鐵經營のもの九十二校に達してゐます、

初等學校 六十二校 (内滿鐵經營三十七校)

内 日本人を目的とするもの四十四校 (内滿鐵經營二十六校)
支那人教育を目的とするもの十八校 (内滿鐵經營十一校)
實業補習學校 三十七校 (内滿鐵經營三十五校)

中等學校 二十八校 (内滿鐵經營十九校)

高等專門學校 三校 (内滿鐵經營一校)

以上は總て日本が施設したる文明的の教育機關であつて、初等教育即ち小學校に在りては日本人の兒童と支那人の兒童と分離教育を原則と致して居りますが、之れは言語の相違から教授上已むを得ない事情があるからであります、隨つて其の必要な者に對しては希望に依り支那人の兒童を日本人小學校に入學することを歡迎してゐ

るので、中等程度以上の學校に於ては二、三のものを除き日本人たると、支那人たるとを問はず均しく之を收容し混合教育を施して居ります、今日滿洲に是れ丈けの新式教育機關がありますが、之を明治四十年に於ける日本人小學校及公學堂（支那人初等學校）各二校、其他宗教團體の經營に係る小學校二校に過ぎざりし當時を顧みれば、十有餘年の今日と比較し實に今昔の感に堪えざるものがある、蓋し教育の進歩は滿蒙の將來に影響する所重大なるものがありますから、日支兩國國民の教育の普及に就ては滿蒙開發の使命を有する特殊機關たる滿鐵會社の銳意努力せられむことを期待する次第であります、此點につき早川滿鐵新社長は文化的社會事業に大なる抱負を有つて居らるるやうでありますから、滿蒙開發、文化の向上、

日支兩民族共存共榮の爲めに祝福すべきことと思ふのである。

（ホ）地方行政に關する施設

滿洲に於ける租借地及鐵道附屬地は其性質が支那諸港に於ける專管居留地に相似たる點が甚だ多い、即ち其の地域内の行政權は租借國たる我日本に屬して、支那國民も亦日本官憲の統治を享くることになつて居ります、尤も關東州租借地内に於ける行政方針は全然日本内地に於ける法令に準據するわけではありませぬ、支那人民のみに關する事項はなるべく支那の習慣法令を尊重して之に準ぜしめ、日本人に關する場合は主義として日本の國內法規に據ることになつてゐます、之は住民の多數を占むる支那人の利益を尊重し、支那人の社會的待遇を重んじて文化的指導竝に施設を爲し支那民族の幸福

を増進する趣旨に基いたものであります。又租借地内に在る地方部落に於ては土地人口の大小を案じて簡易なる地方自治團體を組織せしめ、之を監督してなるべく地方民の意嚮に副ふことにして居ります、又鐵道附屬地の諸施設は滿鐵會社が多額の犠牲を拂つて之を爲しつゝありますが、其の費用の一部は附屬地内の在住者に分擔せしめてゐます、これが爲めに各地方に滿鐵の施設に對する諮問機關として地方行政委員を設けてあります、此委員は従前滿鐵會社の指定でありましたが昨年から制度を改めて住民の選舉に依ることとなり各國人共に選舉被選舉の權利を有します、唯日本人以外の國民は被選舉者の總數二分の一以上に上ることを得ざる規定であります、故に此範圍内に於ては支那人民も共に附屬地内の行政を議すること

が出来、之を他の支那諸港に於ける專管居留地のそれに較べれば居住支那人の權利、幸福は遙かに優つて居ります。

(へ) 産業の發達

産業方面に就て云へば、滿蒙の地は農産、畜産、鑛産、林産、水産等頗る豊富で、近時文化の進歩に伴ひ漸次發展の經過に在ります、從來の原始的産業に徹底的に一大進歩を見るも近きにあるべく、同胞の増殖發展と共に逐年其の發達顯著なるものがあります、先づ農産に就て見るに産額の最も多きは高粱で土民の食糧、燃料、建築用として必須のものであります、粟の産額が之に亞いでゐます。大豆は世界的名聲を博し高粱と共に滿洲農産物の主要なるものである、大豆の改良の如き滿鐵經營の農事試験場に於て優良品種の育成を完了

し、其の種子を一般支那農家に配付して栽培普及を圖つて居りますが、支那農家は在來大豆の成績に比し二割以上の收入増加を示しました、随つて將來大豆の年産額は現在三百八十萬噸に對し優に六十萬噸の増收を得ることが出来るのであります、大豆の需要は日本内地は勿論遠く歐米に販路を以て、明治四十三年大連港の輸出高三十五萬噸であつたのが大正八年には約二倍となつて六十萬噸を超過するに至りました、豆粕は豆油の副産物として馬糧等に供せられて居たのであります、之が肥料として日本内地の需要を喚起すると同時に、其の豆油は工業原料として歐米輸出の途が開けて以來驚くべき發達を來たしました、之を數字に見るに豆粕の輸出は四十三年二十餘萬噸であつたのが、大正八年には一躍百十萬噸に上り、又豆油

は僅かに二萬噸であつたのが大正七、八年は二十萬噸から輸出を爲して、實に十倍の激増であります。北滿に於ける小麥は近時著しく需要を來たし大正九年中大連港を経て輸出された小麥は、總額三十九萬噸で其の殆んど全部が歐洲に仕立てられました、歐洲大陸が滿洲小麥に期待する處益々大なるものを知るのであります。

畜産は從來農家の副業たるに止まるも、近年農業の發達と相俟つて此の方面の改良増殖着々行はれつつあります、家畜の最も多きは豚の六百七十萬頭、羊の二百七十萬頭、牛の二百萬頭で、近年日本の毛織工業や皮革工業の發達に伴つて羊毛、皮革類が尠からず輸出を見るに至りました、滿蒙に於ける畜産業は益々有望であります。

林産は頗る豊富で滿蒙の森林としては第一に南滿の松花江及豆滿

江上流地一帯、長白山麓、之に亞ぐは鴨綠江上流及渾江上流の一圓で、北滿には東清鐵道東部線の海林地方及吉林省三姓地方のものを其の尤なるものとし、樹種は主として潤葉樹六割、針葉樹四割と見て大差がない、テウセンマツ、ナラ、カシハ類、シナノキ類、カラマツ類が大部分を占めてゐます、以上今日迄に知られてゐる森林だけでも其の總面積一千百萬町歩に亘つて居ります、随つて木材業者の多數なる驚くべき程で、會社組織のものだけでも優に五十指を屈し其の他個人經營のものも尠くない。

水産は滿洲の海岸線は短いが黃海及渤海は各種の魚族に富んで、沿岸の漁業は盛大なものであります、然し關東州を除いては統計の據るべきものがないから、數字を擧げて説くことが出来ませぬが、

關東州だけの水揚高でも最近一ヶ年に二百萬圓内外の漁獲高があります、漁業者は支那人と日本人でありますが、日本人は愛媛、熊本、香川、大分、廣島、岡山等四國、九州、中國方面の出漁者で主なる漁獲物は日本人は鯛、支那漁夫は大口魚、黃花魚、大刀魚である。又捕鯨業は東洋捕鯨會社其他が出漁して長崎方面へ輸送されます。鹽業は營口、蓋平、復州の沿岸は支那政府官營及民營の鹽田が連り天日製鹽をなして居る、我租借地關東州も鹽業盛んなるものがある、産額は年によつて異なるも約三百萬石で内關東州産鹽七八十萬石であります、そして産鹽は日本内地及朝鮮に輸出せられてゐます。

工産は工業原料及燃料の豊富なるにも拘らず、從來支那人の技能幼稚なる爲め搾油、製粉、酒造業の外見るべきものなく、日常の需

要品さへ多くは海外若くは南滿地方よりの輸入に待つて居たのである、處が輒近日本人の進展と共に豊富なる原料と燃料と低廉なる勞力とを利用して、各種の工業勃興し漸く工業的植民地としての光明を認むるに至りました、石炭及モンド瓦斯利用による低廉なる電力の供給に依つて化學工業が盛んになり、農産物加工業としては製粉業が發達し、就中油脂工業は大豆油を原料として近年長足の進歩を致しました、其の油を搾つた豆粕は我國へ年々三千萬圓からの輸出を見るのであります、油房業と相對立するものは醸造業で、蓋し滿洲の二大工業でありまして其の年産額一千三百萬圓と推測せられ毎年支那本部へ輸出せらるるもの少くない。

鑛産に就て云へば、滿蒙の鑛産は未だ十分の調査が出来ない爲め、

鑛物の種類、埋藏量等甚だ不分明であります、金屬鑛物として鐵及金が重要な位置を占め、非金屬鑛物は其種類多く石炭を主として相當の價值ある鑛産物に富んで居ります、滿蒙の金は殆んど砂金であります、金は黒龍江省に多く其他の地方にも産出しますが、黒龍江省のみにも年産額一千萬圓に達し大部分は支那政府の有であります。鐵の埋藏量は莫大なるものであることは想像せられて居るが、製鐵事業を經營して居るのは本溪湖煤鐵公司及滿鐵會社鞍山製鐵所の二つのみであります、本溪湖煤鐵公司是日支合辦の製鐵所で本溪湖の石炭及石灰と廟兒溝の鐵鑛を原料として、一日二百噸の銑鐵を製出して居ります。又滿鐵會社鞍山製鐵所は歐洲戰亂の結果、鐵材自給の必要上八百萬圓を投じて創立せられたるもので原料鐵鑛は豊

富である、未だ創業時代で着々豫定の計劃を以て製鐵に従事しつつあるのです。次に石炭は滿蒙鑛産中最も重要なるもので、撫順炭山の名は世界的に知られて居る、其の外本溪湖、煙臺及蒙古に於ける新邱炭鑛があります、撫順炭鑛は奉天の東約十里、鑛區二千萬坪、炭層の厚さは七十八尺より二百八十八尺あつて平均百三十尺乃至百七十五尺に達し實に世界無比と稱せられてゐる、埋藏炭量八億噸、最近式の採掘法によつて目下一日一萬噸を出して居る、煙臺炭鑛は炭量四千萬噸で一日四百噸餘の出炭を爲してゐます、本溪湖炭は火力強く製鐵用骸炭製造に最もよく適し、半無煙炭で埋藏炭量二億噸、炭層の厚さ二尺乃至九尺であります、蒙古の新邱炭鑛は兩三年前開坑したものであります、著名なるものである、其の他滿蒙には各地

に炭山もあれば鑛山もあつて、實に滿蒙資源の開發は同胞の進展と共に將來に期待する次第であります。

(ト)北滿及內蒙古の開發

南滿洲鐵道は其の營業哩六百八十六哩、線路延長一萬四千二百九十哩に達し、起點を大連港に發して北延し京奉線の終點たる清朝發祥の地奉天省を縦貫し、四平街に於て蒙古鐵道四洮線と丁字形に結び、更に大小遼多の都鄙を點綴して遼河及松花江流域の分水嶺を超え、吉林省長春に於て東清及吉長兩鐵道と聯絡する四百三十七哩の幹線と、鴨綠江畔安東を起點として奉天に於て滿鐵幹線に合する安奉支線七十哩、並に其の他の五支線九十六哩を有して東洋歐洲間聯絡鐵道として東清鐵道に接續し、豊富なる農産物其の他物資の輸送

機關として南滿から北滿に延び、一方四平街から蒙古に延び、着々北滿及東部内蒙古の開発に努力しつつあります、在滿同胞は今や南滿に築き上げた基礎と經驗とを以て北滿に、又一方蒙古方面へ發展しつつあります、將來吉會鐵道及滿蒙五鐵道が完成せられたる曉には北滿及蒙古の富源開發は更に一段の進展を見るべく期待せられて居ります。

三、蒙古事情

蒙古はどんな所であるか。蒙古は大體を申しますと支那の一屬邦で其の宗主權は支那に屬して居ります、さて其の境界はといふと詳細の事は分らないが、支那本部とは萬里の長城で境し、東方は滿洲と境し西方は西藏と境し、北方は西伯利と境して居る、此の地域が

所謂蒙古と稱するものであつて、日本の面積の何倍あるか未だ分つてゐない。蒙古は内蒙古と外蒙古とに區分する、此の内蒙古外蒙古の境界も亦極めて不分明なものであります、それでどう云ふ風に大體分けるかと云ふと、先づ戈壁の沙漠から東北の方は外蒙古、南の方は内蒙古と稱して居るのです。

内蒙古はどう云ふ所であるかと云ふと、是は割合に土地が良い、中に東蒙古の所謂東才壁の沙漠があるけれども、是は小さい沙漠であつて一日か半日で横切られるものが點々して幾つかある位で、全體から見れば眼中に置く程のものではありませぬ。それで東部内蒙古に就て特に注意しなければならぬのは、問題になつて居る日本の特殊權限であります、今まで東部内蒙古は日本の特殊權限内に加つ

て居る地域であります、即ち日本は東部内蒙古に於て或る限定された鑛山の發掘、農業を營み得ること、又場所を決めて其處に日本人が居住し得ること、農業に附帶して之を加工する所の工場を營み得ること、尤も是は支那人と合辦でやること、以上の特權を有つて居るのであります、その東部内蒙古の面積はどの位あるかと云ふと、凡そ一萬九千六百里ばかりある、反別にすると三千三十四萬八千八百町歩ばかりになる、凡そ日本々土と四國及九州とを合せた位の大きさであります、此中に若し耕作したならばどの位の面積が耕作されるかと云ふと、凡そ一千萬町歩位が農耕地となることが出来る見込である、それで今どの位の土地が開墾されて居るかと云ふと、蒙古人は少しも開墾するだけの能率がない、多くは支那人が移住し開墾し

て農業をやつて居る、其の既墾地が凡そ二百三十萬町歩で、残りの約八百萬町歩は未墾地の儘に残つて居るのです、其の他牧畜業に適する土地は幾らでもある、又鑛山は未發掘でありますから此方面に着手すれば随分有望であります。所で今東部内蒙古だけでどの位の人口があるかと云ふと、移住した支那人が凡そ四百萬人、純粹の蒙古人が約七百萬人位であるから、人口の稀薄なることは驚くべきもので、少し奥に入ると五里に一軒、十里に一部落と云ふやうな淋しい所になつて居ります、斯様の状態でありますから、滿蒙五鐵道が開通することになれば日本人の發展に随つて東部内蒙古の開拓は活目に價するものがあるであらう。

次に外蒙古はどう云ふ所であるかと云ふと、彼の戈壁沙漠の餘波

を受けて、その沙漠も何處からどこまでが沙漠で、是から沙漠でない
と云ふことは分らぬ、随つて内蒙古のやうに沃野千里と云ふわけに
ゆかぬ、沃野があれば沙地もある、大體内蒙古よりは土地が悪い、
随つて土地から出る農産物其の他の物資も内蒙古よりは劣つて居り
ます。

四、滿蒙文化の紹介と鮮滿及支那案内

滿蒙に於ける各般の事情を紹介し滿蒙の文化開發に資する目的を
以て、『滿蒙文化協會』が設立せられてゐる、同協會は後藤男爵を
總裁とし會長は早川滿鐵社長である、機關雜誌として毎月滿蒙之文
化を發刊して居ります、尙ほ同協會の主なる事業を舉ぐれば(イ)滿
蒙及東露に關する正確なる調査研究並に宣傳、(ロ)滿蒙東露の各種

企業者に對する指導其の他依頼に依る調査研究、(ハ)講演並に出版
(ニ)其の他滿蒙及東露の文化開發に必要な事項等で、本部を大連
に置き東京には滿鐵鮮滿案内所に支部を設けてあります。

次に滿鮮及支那旅行者の便宜を計る爲めに東京丸之内滿鐵會社支
社内に『滿鐵鮮滿案内所』が出来て居ります、同案内所は無料にて
(イ)滿鮮地方狀況の説明、(ロ)旅行日程の作成、(ハ)汽車汽船連絡
時刻の説明、(ニ)荷物運送に關する各種の説明、(ホ)滿鮮及支那鐵
道に關する乗車券及寢臺券の發賣、旅館の紹介等一切旅行者の便宜
斡旋を爲してゐますから、詳細は同案内所に就き聞合せれば、懇切
に萬端の世話を致します。

五、滿洲事情宣傳の歌

朝日は昇る黃海に
遼東半島南部なる
東西萬里の船の路
こゝ一點に集れる
滿鐵本社を初めとし
東洋一の埠頭には
護國の將士二萬餘の
今は春日のうらゝかに
閉塞隊が三回の
鐵と血汐に覆はれし

夕日は沈む渤海に
要地を占むる關東州。
歐亞を連ぬる鐵道も
大連市こそ壯んなれ。
大厦高樓並び立ち
大豆豆粕山をなす。
命に代へし旅順口
關東廳の壁に照る。
壯舉のあとの海碧く
爾靈の山に風高し。

双島灣や普蘭店
遼河に臨む營口は
巖と松の千山は
寺の薨に雲迷ひ
骸炭工場熱風爐
湯氣に煙に空くらき
夫れ遼陽は滿洲の
十字街邊往來の
一千年の風雪を
十三層樓白塔は
名高き撫順炭坑は

鹽田遠く連りて
帆影絶えざる貿易港、
世の塵立たぬ別天地
梨の木林道士行く。
八十尺の鎔鑛爐
これを鞍山製鐵所。
最も古き城市にて
人馬さながら織る如し。
凌ぎて立つや八角の
今公園の名にも呼ぶ。
東西四里に跨りて

炭量およそ九億噸
日露の役に決勝の
安奉撫順京奉の
清朝太祖太宗の
野らを進みて北陵と
遼河によりて營口と
大豆積みたる支那馬車の
左へ四鄭鐵路にて
こゝは蒙古の口にして
滿鐵線に立歸り
滿蒙農事の改良に

露天掘など目ざましや。
陸戦ありし奉天や
諸線はこゝに交れり。
宮居は残る城のうち
東陵訪へば松の風。
取引繁き鐵嶺よ
絶えぬは冬の開原ぞ。
進めばやがて鄭家屯
駱駝の來るも珍らしや。
北へへ行けば公主嶺
勤むる農事試験場。

星のみ照りし荒野らの
市場となりし長春は
松花江をば流し來る
關帝廟より見渡せば
北は西比利亞、西蒙古
進めばやがて北滿の
左を指せば歐羅巴
水路の便も備りて
奉天驛に立戻り
窓に見馴れし高粱の
太子河岸の本溪湖

開けて大豆木材の
我が鐵道の北の果。
篋集る吉林城
京都に似たる眺め哉。
漠々連る平原を
大都會なる哈爾濱市。
右に向へば浦鹽や
日支露商人こゝに寄る。
安奉線に乘行けば
畑は盡きて山と水。
煤鐵公司あるところ

空に大地に燃上る
橋頭驛を越行けば
細河うねりて松老いて
鴨綠江の右岸なる
製材業も盛んにて
あゝ滿蒙の大野らは
富をさゝげて人を待つ

焰に赤し夜の雲。
巖ある巖聳り立ち
寺などあるも晝に似たり。
安東にては柞蠶業
採木公司もこゝに在り。
未開の境なほ多く
行きて努めよ國民等。

(拓殖局作歌)

第七 南米事情の宣傳

一、邦人發展の新天地

(イ)南米はどんな所か

南米はどんな所であるか。明治三十二年に我第一回移民を秘露に送つて以來既に二十有餘年、又南米の樂土ブラジルに我第一回の移民を移住せしめてから十四年を経過した今日、同胞の移住を歓迎してゐる南米の樂園を知つて居る人々の極めて尠ないと云ふ事は、實に遺憾の次第であります。南米は巴奈馬を加へて十一の獨立共和國があります、その内我條約國は現在七箇國で、更に他の二箇國とは遠からず條約締結の運びに至らんとしてゐる、既設の我公使館及領

事館等南米の在外公館が十一箇所あります、そして日本人の商店は明治三十四年太平洋岸の秘露國のリマに開店した橋谷商會を魁として、其の後凡そ六年を経て大西洋岸に於ける伯刺西爾のサン・パウロに藤崎商會が店を出した、是等が先鋒となつて日本人の商店は年々増加を來し、今では南米を通じ支店分店を合せて三十を超えて居ります、之が爲め從來外國人の手を経て少許の日本商品が送られてゐましたのが、近年に到つては各種の日本製品が餘程多量に南米に向つて輸出されるやうになりました、又本邦汽船の南米航路は明治三十九年に東洋汽船株式會社が備船を用ゐて智利硝石の積出港たるイキケ迄開航したのが端緒となつて、今度は備船でなく日本汽船を以て其の航路をザアルパライン迄延長し、二箇月に一回の定期航海を

開くととなつた、又大西洋岸に於ても大正五、六年に懸けて大阪商船會社及日本郵船會社が一箇月又は二箇月に一回宛船を出すやうになつて唯今の所郵船會社は不定期であるが、商船會社の方は補助命令航路として定期で船をブラジル及アルゼンチンに向けて發するこゝとなつて居ります。又一面横濱正金銀行はブエノス・アイレスとリオ・デ・ジャネーロに其の支店を設けて金融取引の便を圖つて居ります、それで現住本邦人は四萬七千人に上つて、第二の郷土を作らべくその多くは頗る健在に、幸福に活動してゐるのであります、併かも南米の地たるや氣候風土が我日本のそれに類似せる處多く、地味肥沃にして産物豊富、加ふるに人口稀薄地域廣大で、我邦人の渡來を心から歡迎して居る移住適地の國柄であります、随つてブラジ

ルの如き邦人の渡航に對し補助を爲しつつある國もあるのです、それで南米への渡航は大西洋岸行ならば日本郵船又は大阪商船に依つて、又大平洋岸行ならば東洋汽船に依つて横濱、神戸若くは長崎を發し航海日數四五十日乃至五六十日で直航し得るのであります。

(□) 邦人發展の現状

南米に於ける日本人の數は最近の調査に依れば、ブラジルの三萬四千人を筆頭として、次は秘露に約一萬人、アルゼンチンの二千人、其他智利、暮利比亞、巴奈馬等に若干で總數四萬七千人であります、そして日本人の商館約三十、在外公館が十一箇所設置せられて保護監督をして居ります。在南米日本人の生活狀況を云へば、今大多數を占むるブラジルの三萬四千人に就て見るに、一家族四人とし

て約八千家族のものであります、其の八千家族の中の二千二百家族位は既に小地主になつてゐます、小地主と云ふと一人に就てどの位の土地を持つて居るかといふと、凡そ二十五町歩であります、是は農民一家が初め所有することの出来る面積であります、それから段々金を儲ければ買ひ擴げて百町歩、二百町歩、五百町歩と云ふ風に持つやうになるのであります、此二千二百有餘の家族が皆合せて今日どれ丈けの土地を所有してゐるか云ふと、六萬六千町歩の土地を所有して居ります、一家族平均所有地三十町歩で此土地の總面積は恰かも東京府全體の田畑の總面積が六萬三千町歩でありますから、其の東京府全體の田畑よりも少し廣い丈けの面積の土地を素手で行つた所の日本の移植民が僅に十年もたない中にブラジルで

所有してゐるのであります、斯ふ云ふ風に土地を買つて發展する、
 そうして其の土地を開發する爲めに其處に又金を注込む、または丈
 けではいかぬと云ふて隣りと共同して尙ほ土地を廣く買ふと云ふ風
 に、貯蓄した金、儲けた金をどしどし注込んで居りまり、つまり日
 本の土地がそれ丈け廣がつて行くやうなものであります、従つてブ
 ラジル移民は布哇や北米方面に出稼して日本へ送金すると云ふ風で
 は無く、働いて儲けた金を以て確實に土地所有權を持つて、それを
 土臺に益發展して第二の郷土を南米に形づくりつつあるので、従つ
 て移民と云ふよりは殖民と云ふ意氣込で愉快に希望を以て活動發展
 しつつあるのです。

二、南米の樂土ブラジル

(イ)最も有望なる移住適地

南米十一箇國中日本商人の市場として一番見込のあるのはアルゼ
 ンチンであります、また移殖民を入れるのに都合よく且つ容易に發
 展せしむることの出来る處はブラジルが第一であります、勿論其の
 他の智利にも、秘露にも、哥倫比亞にも、ヴェネズエラにも充分
 日本人の發展の餘地がありますが、併し何處が日本人の多數這入つ
 て仕事をするのに一番宜いかと云ふと、市場としては今の所アルゼ
 ンチンが最も有望であります、併し日本の此の過剰人口を植つける
 餘地のあるのはブラジルが第一であります、殊にブラジルの中南
 部が氣候風土其他總ての點に於て日本人の發展に最も適して居り
 ます。

ブラジルの國は南米の半分の大きさがあつて、ブラジルの一國と南米の残りの十箇國と均合ふのであります、實に全世界の陸地の十五分の一を占めて、南北亞米利加全體の五分の一の大きさであります、夫で我日本と較べて見ると、日本々土の二十二倍餘に當つて、ブラジルの一州アマゾン州丈けても日本々土の五倍もあります。更に之を他の大國と較べて見ると、世界で一番大きいのは支那、其の次が北米合衆國、次で加奈陀、ブラジルは第四番目であります、その大きな土地へ以て來て人口は凡そ二千八百萬、一方哩の人口が僅かに八人と云ふ密度の極めて粗い國柄である、若し日本と同じ密度で人間を植付けたならば、十億以上の人口を收容し得る國であります、所でそんな國で沙漠があつたり、不毛の土地では仕方が無い

が、ブラジルは到る處農業なり、牧畜なり、林業なりに好適して充分生産力を有つてゐるのです、従つて日本人が幾ら這入つて行つても仕事を餘地がある天恵の移住適地であります。

(ロ) 氣候風土と産物

ブラジルは國が大きいから熱帶地もあれば、亞熱帶地もある、又日本の様な温帶地もあるので、それでブラジルを通じて温帶半分熱帶半分と云ふわけであります、吾々日本人が發展するには温帶地即ちブラジルの中部以南が適して居ります、現に三萬三千人の同胞が移住してゐるサンパウロ州の如き、其の南部に位する温暖地で實に地上の樂園であります、又氣候が吾々日本人の健康並活動に適して居る南方丈けても十分這入つて行く餘地があるのであります。然

らばブラジルの産物はどんな物が出来るかと云ふと、其の氣候には温帯あり、熱帯あり又亞熱帯ありと云ふ状態ですから、多種多様の産物が出来るといふ點に於て非常に便利であります、今日ブラジルの重要物産として盛んに外國に輸出せられてゐるのは、珈琲を始めとして天然護謨（是は栽培しないで山にある物を採つて來る丈けてある）マテ茶（一名パラグワイ茶と云ひ日本の茶と同じやうにして飲む）煙草、ココア、棉花、砂糖、米、牛皮、豚の油、羊毛等であります、併しブラジルには未だ資本と勞力が不足であるから、其の資本と勞力と企業者と産業上の知識を輸入して開發すれば、産物の種類も又其の數量も何倍にも増殖することが出来るのです、一例を申すと米である、米はブラジル人が盛に需要致しますが、十二、三年前迄は

國內の需要を充たすことすら出来ないで、外國から輸入して居ました、それが政府に於て色々と奨励策を講じて米作を盛んにした結果、今日では輸入の必要がなくなり、却つて外へ出すやうになりました、又小麥にしても南方の温暖地では好く出来ますから、將來有望なる産物の一つになると思ひます、其の他開發すべき事業は幾らもあつて、又開發すべき富源は殆んど無盡藏であります、要するに資本と勞力さへ注止めばブラジルの福利が増殖するわけでありますから、ブラジル政府は外國の移住民を一層歡迎するのであります。

(ハ)邦人を最も歡迎する國

ブラジルは今から凡そ四百年前に葡萄牙人が發見した國であります、百年前に葡萄牙から獨立して今は共和國であります、國內の

産業開發上外國から勞資を輸入すると云ふことに頗る熱心なる國柄であります、それでブラジルの憲法中には二つの吾々日本人に採つて非常に有利な主義が這入つてゐるのです。其の一つは「憲法は國內に居住する白黒人及外國人に對し自由と個人の安全及財産に關する權利の不可侵を保障す」とあり、外國人とブラジル人とを區別することなく、同様に取扱ひ同様に待遇してゐることであり、もう一つは「法律の前には何人も平等なり」と憲法に明記して、人種の平等を規定して居ります、斯う云ふわけでありますから、日本人はブラジルで各國人と平等の待遇を得、ブラジル人と同様にブラジルに於て土地及其他の財産を所有することが出来るのであります、是は憲法に空文を記載して居るのでは無く實際に於て人種平等及無差別

待遇を行つて居るのです、日本人のブラジルで産んだ子供は、日本の法律から見れば日本人であると同様にブラジルの法律から云へばブラジル人であります、随つてブラジル人たる日本人は公權、私權を總て享有するのであります、斯う云ふ風にブラジルの法律が極く寛大であるから既に日本人で歸化して居るものもあるし、土地を所有して居る者が多數あるのです、尙ほブラジル政府は國內に於ける種々の生産業獎勵の爲めに、補助金或は助成金を下附してゐるし、又政府の經營して居る鐵道、又は汽船では移住民に對して運賃を無料にしたり或は割引して居る、或は機械其他の材料に對して關税を免除すると云ふやうに、色々な恩典を與へる場合に於ても日本人と外國人とを區別して居らぬのであります、排日の喧ましい今日南

米のブラジルのみは邦人を最も歓迎する國であります。

(二) 邦人の企業に便利なる地

ブラジル共和国は中央政府と、各州政府と、二つありますが、中央政府に於ても各州政府に於ても、外國の勞力及資本を歓迎する爲めに色々恩恵を與へて、之を導き入れる方策を執つて居ます、随つて歐羅巴諸國及北米の資本家、事業家は數十年も前から斯う云ふ恩典を利用して、どしどしブラジルへ資本を投じて盛んに事業をやつてゐるのです、其の事業は有ゆる方面に亘つてゐますが、主なるものは鐵道の敷設經營、電氣事業、鑛山業、農業、牧畜、製造工場、築港、市街改良工事の請負其他何でも有利有益と認められた事には機會を逸せず巧みに這入り込んで來て資本を投じて居る、そのブラジ

ルに投じた資本は約三億萬圓に上つて居ると云ふ程であります。日本人も一つ是からは勞働者ばかりでなく、資本も一緒に持つて行つてブラジルで事業を企てるならば、日本人に適當と思はれ又有利と思はる事業が幾らもあるのです、今其の二三を擧ぐれば、甘蔗栽培並に製糖業、養蠶、製絲並に機織業、棉花の栽培と紡績業、漁業並に水産加工業、藥用植物の栽培又は纖維植物の栽培、麻袋の製造(麻袋は珈琲其他穀物等を運び、殊に外國に輸出する爲めに非常に需要がある)製紙及陶磁器の製造等であつて、尙ほ其他に擧ぐれば幾らもあるが、斯う云ふ方面に日本人が着眼して今後南米の企業に着手せられんことを期待する次第であります。

三、南米渡航の榮

南米は邦人發展の新天地であり又ブラジルは南米の樂土であることを述べましたが、扱て其の渡航に就てはどうしたらいいかと云ふと、夫等の紹介斡旋を爲す機關が出来て居ります、東京市麴町區丸之内仲貳號館に在る『海外興業株式會社』がそれであり、同社は資本金壹千萬圓の株式會社で、(イ)海外に於る企業投資及金融(ロ)南米、南洋其の他に於ける植民地經營並に移民の取扱を營んで居ります、そして同社の享有する特典は(イ)鐵道省から渡航移民に對し乗車賃の半減(ロ)ブラジル國サンパウロ州政府から家族移民に對し就業地に到る迄無賃輸送を爲す事(ハ)植民に對してはサンパウロ州政府から定着滿一ヶ年後に於て渡航船賃金額を支給

す、尙ほ同社の事業は大略左の通りであります、移民其の他事業に關しては直接同社又は各縣樞要の地にある同社の代理人に就て渡航其の他諸般の事項を承知せられたし。

海外興業株式會社の事業

(イ)移民取扱方面

- | | | |
|---|---|----------------|
| 南 | 米 | ブラジル國、ペルー國 |
| 佛 | 領 | フキリツピン群島 |
| 英 | 領 | ニューカレドニア及タヒチ諸島 |
| | 領 | 大洋島、東西濠洲 |

此外に於ても有望なる諸外國への移民紹介を致します。

(ロ)イグアツベ植民地

所在	ブラジル國サンパウロ州イグアツペ郡
所有地面積	五萬四百十七町步
邦人植民者	二千六十三人(四百七十六家族)
醫務室	邦人醫師及藥劑師常任
學校	男子小學校二、女子小學校二
農事試驗所	一
種畜場	一
製材所	一
日用品販賣所	一
精米所	一
瓦煉瓦製造所	一

(ハ) アニエーマス農場

所在	ブラジル國サンパウロ州パウリスダ線
所有地面積	壹千貳百町步
邦人耕作者	壹百八十名(五十七家族)
作付種類	珈琲、果樹、米、棉、菜豆、玉蜀黍、牧草
設備	水道、電燈
種苗試驗所	一
製材所	一

(ニ) 金融及投資

南米方面	一、一四四、六三三圓
南洋方面	一、〇一四、九八〇圓

附 録

支那に於ける列國の經濟的發展

支那は國土の大に於て世界第一であります、人口の大に於て世界第一であります、又開發せられざる資源に於て世界第一の無盡藏の國と稱せられて居ります、即ち支那は世界第一の市場となるべき要素を有つてゐる國であります、隨つて各國は支那の富源を開發し、共同の福利を増進し、貿易の進展を圖るべく劃策しつつあるのであります。歐洲戰爭を一轉機として世界の趨勢は時代の趨向に一大變化を來たして、世界的思潮は文化的となつて慘禍の戰爭から恒久平

和の理想を實現すべく覺醒するに到りました、最近軍備制限會議が華盛頓に於て開催せられ、大太平洋問題が列強の間に協議せられて圓滿なる協調を遂げられました、日米英佛の四國協約も成立して世界平和の基礎を鞏固ならしめ、人類の福祉を増進すべく協力するに到りました、蓋し世界平和の曙光の認めらるるに到つた事は寔に喜ぶべきことであります、併し是れやがて干戈の戰爭が終つて文化の戰爭が始まる烽火であります、戰略や武器の競爭が止んで商略と商品の競爭が始まる時であります、實力の經濟戰爭の始まる時であります。

日本は東洋先進國として人種的に、地理的に、歴史的に、經濟的に東亞各民族と融合提携して文化の進歩、共同福利の増進を圖るべ

く大なる使命を有して居ります、随つて支那の大なる資源の開発、共同福利の増進に就ては兩國共存共榮の上から見ても、東洋平和の上から見ても他國に比し一層切實なる輔車の關係を有つて居ります。東洋の事情は時節柄益複雑を加へて參りました、就中、支那の事情は對外關係が餘程面倒になつて來て居ります、我國民は今少しく世界の大勢と東亞の事情を眞面目に研究して、具体的に實際的に日本の文化的發達と共に東亞民族の發展、共同福利の増進に努力せられむことを希望して止まないであります、最近支那の青年は教育の進歩に伴つて新文明の空氣に觸れ覺醒しつつあります、支那の事情に就て詳しく言ひたい事もあります、此處には列強の經濟的發展を附録として擧筆することに致します。

(イ)支那對日英米貿易額

一九一三年

日本 一八四、八九〇、八四八兩

英國 一一三、二五七、三五七兩

米國 七三、〇七七、四九九兩

一九一八年

日本 四〇二、二五二、六七〇兩

英國 七五、一五四、八八二兩

米國 一三五、八二〇、二四九兩

一九一九年

日本 四七三、九九一、〇三三兩

東洋事情の宣傳 終

英國		米國	
商館數	人口	商館數	人口
六〇一	一〇、一四〇	一〇〇	三、一七六
六四四	九、〇九九	一八七	五、五八〇
六〇六	七、九五三	二三四	五、七六六

英國	米國	日本
一三一、四七八、四八一兩	二一五、八九三、五四八兩	一九二〇年
		六二八、三五八千圓
	七〇、四六一千磅	
	三三八、四四一千弗	

(口)在支日英米商館及人口

日本		英國		米國	
商館數	人口	商館數	人口	商館數	人口
一九一〇年	一九一六年	一九一〇年	一九一六年	一九一〇年	一九一六年
一、六〇一	一、八五八	一、六〇一	一、八五八	一、六〇一	一、八五八
六五、四三四	一〇四、二七五	六五、四三四	一〇四、二七五	六五、四三四	一〇四、二七五
	二五九、九五〇		二五九、九五〇		二五九、九五〇

社団法人東洋協會定款

第一章 總則

- 第一條 本會ハ東洋ニ於ケル平和文明ノ事業ヲ裨補シ臺灣、朝鮮及滿洲其他東洋ニ於ケル各般ノ事項ヲ調査講究シ共同ノ福利ヲ増進スルヲ以テ目的トス其事業ノ要項左ノ如シ
- 一、臺灣、朝鮮及滿洲ニ於ケル社會狀態及産業上ノ調査ヲ爲シ拓殖ニ關スル各種ノ問題ヲ研究シ其真相ヲ闡明スル事
 - 二、臺灣、朝鮮滿洲及東洋各地ニ於ケル公私ノ業務ニ服スヘキ人材ヲ養成スルニ必要ナル學校ヲ經營スル事
 - 三、東洋ニ於ケル歴史、地理、言語、宗教、人種、制度、習慣、工藝等ニ關スル學術上ノ調査ヲ爲ス事
 - 四、雜誌ヲ發刊スル事
 - 五、講演會ヲ開催スル事
 - 六、圖書館ヲ設立スル事
 - 七、拓殖館ヲ設立スル事

- 第二條 本會ノ定款ハ總會ノ議決ヲ經且ツ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス
- 第三條 本定款施行上必要ノ規程ハ評議員會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム
- 第二章 名稱及位置
- 第四條 本會ハ東洋協會ト稱ス
- 第五條 本會ハ東京市麹町區内山下町一丁目一番地ニ置ク
- 第三章 資 産
- 第六條 本會ノ資産ハ左ノ如シ
- 一、從來本會々員ノ共有ニ屬シタル動産及不動産
 - 二、會員ノ寄附金及會費釀出金
 - 三、篤志者ノ寄附及遺贈ニ係ル金錢物品
 - 四、本會ノ財産ヨリ生スル收益及其他ノ雜收入
- 第七條 本會資産ノ管理及處分ニ關スル規則ハ評議員會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム
- 第四章 會 員
- 第八條 本會ノ會員ハ左ノ四種トス

一、名譽會員

本會總會ニ於テ特ニ推薦シタル者

二、特待會員

本會ノタメ特ニ功勞アル者ニシテ評議員會ニ於テ推薦シタル者又ハ金壹千圓以上ヲ寄附シタル者

三、特別會員

金五十圓以上ヲ寄附シタル者

四、通常會員

毎月會費金五十錢ヲ繳出スル者

本會ノ趣旨ヲ賛成シ一時金一圓以上寄附スル者ヲ贊助員トス

第九條 名譽會員、特待會員、特別會員、通常會員及贊助員ニハ本會ノ制定シタル徽章ヲ交附ス

第十條 會員中本會ノ體面ヲ汚スノ行爲アリト認ムル者又ハ申込ノ寄附金若クハ會費ヲ延滞納付セサル者ハ理事會ノ議決ヲ經テ之ヲ除名ス但既納ノ會費ハ之ヲ還附セス

第五章 總會

第十一條 總會ハ通常總會及臨時總會トス

通常總會ハ毎年一回之ヲ開ク

臨時總會ハ理事ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ會員五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキ之ヲ開クモノトス

第十二條 總會ノ招集及會議ノ目的タル事項ノ通知ハ少ナクトモ十日以前ニ特ニ指定シタル新聞紙又ハ本會發行ノ雜誌ヲ以テ之ヲ爲スモノトス

第十三條 總會ノ決議ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス但定款變更ノ決議ハ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意アルヲ要ス

第六章 評議員會

第十四條 本會ニ評議員會ヲ置ク

評議員會ハ會務ノ重要事件ヲ議決ス

第十五條 評議員ハ百五十名以内トシ總會ニ於テ東京府及近接地在住會員中ヨリ選舉ス

評議員ノ選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ但總會ノ決議ニ依リ他ノ方法ヲ以テ之ニ代ルコトヲ得

第十六條 評議員ノ任期ハ四ケ年トス但重任スルコトヲ妨ケス

補缺評議員ノ任期ハ前任者ノ任期ニ依ル

第十七條 評議員會ハ其全數ノ六分ノ一以上ノ出席ヲ以テ成立ス但同一議事ニ付招集再回

ニ至ルモ尙出席者六分ノ一ニ滿タサルトキハ此限ニアラス

評議員會ノ決議ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス但可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十七條ノ二 評議員ハ書面ニヨリ又ハ他ノ評議員ニ委任シテ表決ヲナスコトヲ得

第七章 理事及監事

第十八條 本會ニ理事拾名以内ヲ置ク

理事ハ左ノ職員ヲ互選ス

會長	一名
副會長	一名
專務理事	一名

第十九條 本會ニ監事二名ヲ置ク

第二十條 理事及監事ハ評議員會ニ於テ評議員中ヨリ選舉ス

理事及監事選舉ノ方法ハ第十五條第二項ヲ準用ス

第二十一條 理事及監事ノ任期ハ評議員ノ任期ニ依ル但重任スルコトヲ妨ケス

補缺理事及監事ノ任期ハ前任者ノ任期ニ依ル

理事及監事ハ名譽職トス但專務理事ハ特ニ有給ト爲スコトヲ得

理事及監事ハ任期滿了ノ後ト雖モ後任者ノ就職スル迄仍其職務ヲ行フモノトス

第二十二條 職員職務ノ權限ヲ定ムルコト左ノ如シ

會長ハ會務ヲ總理シ本會ヲ代表シ總會評議員會及理事會ヲ招集シ其議長トナル副會長ハ

會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

專務理事ハ常務ヲ掌理シ會長副會長共ニ事故アルトキハ緊急ノ事件ニ付テハ其職務ヲ執行スルコトヲ得

第八章 支部及委員部

第二十三條 本會ハ事業執行上ノ便ヲ圖ル爲メ大阪、京都、臺灣、朝鮮、滿洲及其他樞要

ノ地ニ支部又ハ委員部ヲ置ク但特ニ主務官廳ノ許可ヲ要スルモノハ其規定ニ從フ

第二十四條 支部ノ委員部ニ關スル規程ハ評議員會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

現在役員

會長 男 爵 後 藤 新 平

396

286

終

